

第1章

子どもの生活と気持ち

第1章「子どもの生活と気持ち」では、「全国学力・学習状況調査」（文部科学省）の結果や「三重県子ども条例に基づく調査」の結果から、子どもの生活習慣や自己肯定感、大人との関わり、地域との関わりなど、子どもの現状を把握します。

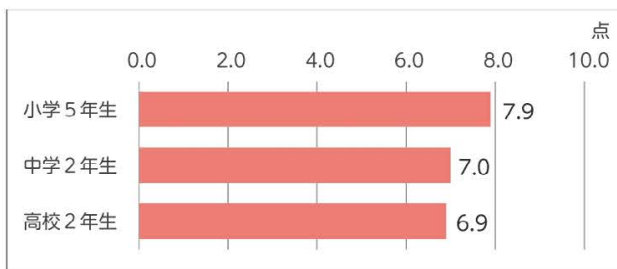
第1章の概要



■ 生活満足度

最近の生活満足度の平均値は小学生で7.9点、中学生で7.0点、高校生で6.9点となり、小学生、中学生、高校生と上がるにつれて、低くなっています。

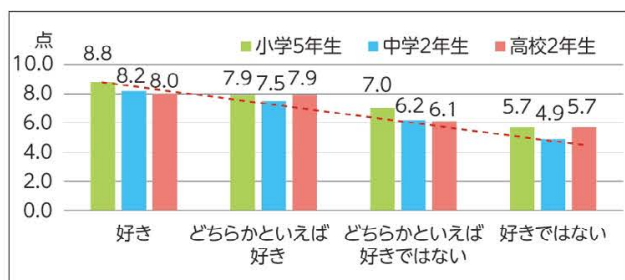
【最近の生活満足度の平均値】



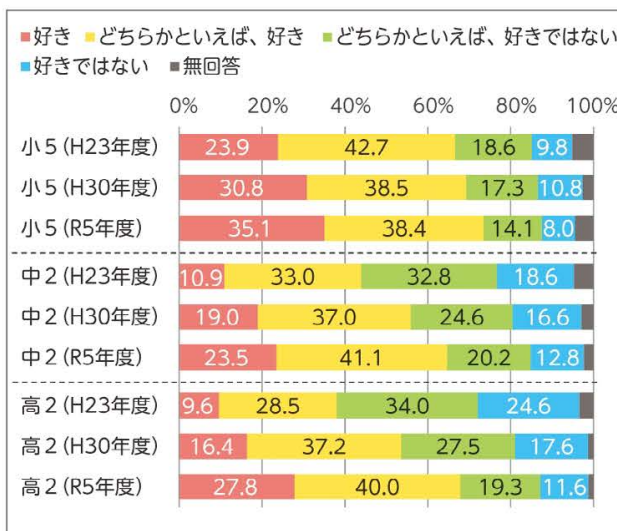
■ 自己肯定感

自分のことが好きな子どもの割合は、小学生で73.5%、中学生で64.6%、高校生で67.8%となり、平成23年度以降増加しています。また、自分のことが好きな子どもほど生活満足度の平均値が高くなっています。

【「自分のことが好き」と「生活満足度の平均値」の関係】



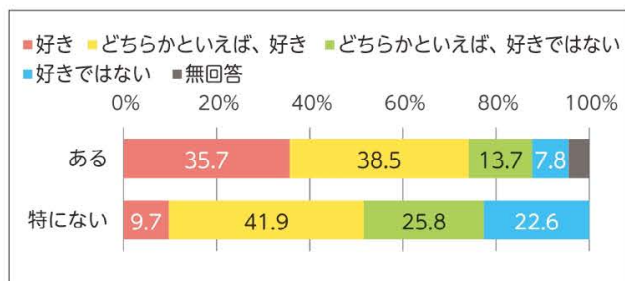
【自分のことが好きか】



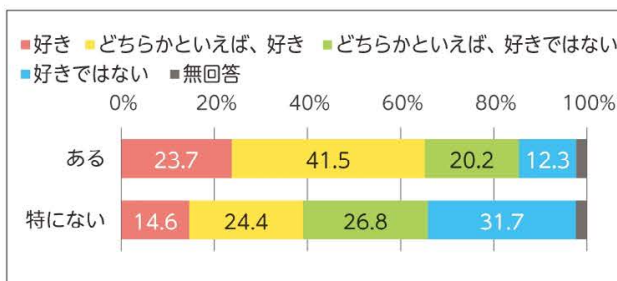
■ 子どもの居場所

ほっとする場所がある子どもは、特にない子どもより、自分のことが好きな割合が高く、特に小学生や中学生でその傾向がみられます。

【「ほっとする場所の有無」と「自分のことが好き」の関係(小学生)】



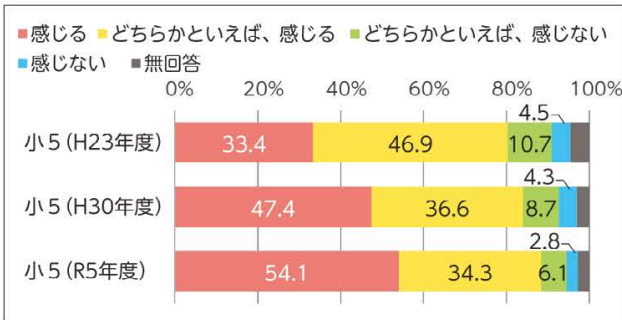
【「ほっとする場所の有無」と「自分のことが好き」の関係(中学生)】



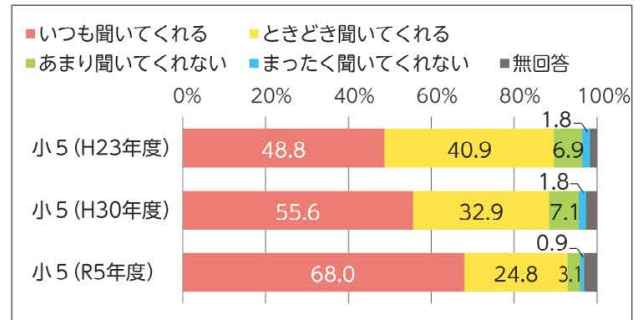
■ 大人との関わり

「家庭や地域、学校などふだん生活している中で大切にされている」と感じる子どもや「親などの大人は自分のことを決めるとき意見を聞いてくれる」と答えた子どもの割合は、平成23年度以降増加傾向です。「いつも聞いてくれる」と答えた子どもは、「親などの大人が自分のことをわかってくれていると思う」割合が高くなっており、また、「わかってくれていると思う」と答えた子どもは、自分のことが好きな割合が高くなっています。いずれも中学生、高校生についても同様の傾向がみられます。

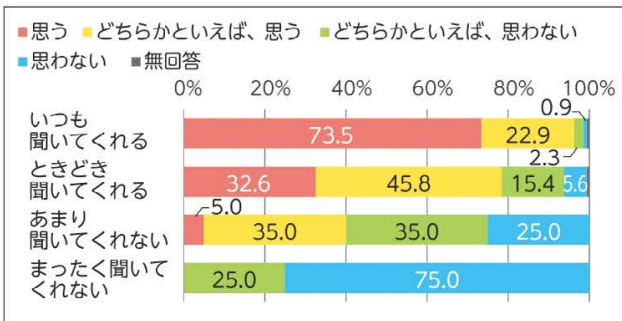
【ふだん生活している中で大切にされていると感じるか(小学生)】



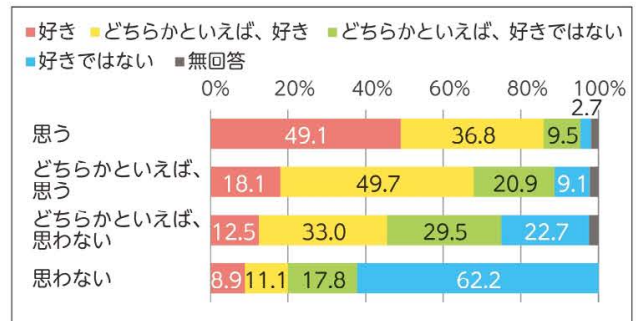
【親などの大人は自分のことを決めるとき意見を聞いてくれるか(小学生)】



【「親などの大人は自分のことを決めるとき意見を聞いてくれるか」と「親などの大人は自分のことをわかってくれていると思うか」の関係(小学生)】



【「親などの大人は自分のことをわかってくれていると思うか」と「自分のことが好き」の関係(小学生)】

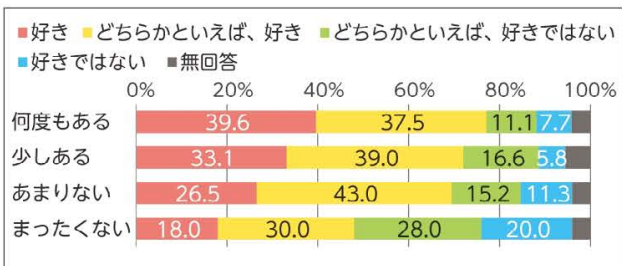


■ 幼少期の体験機会

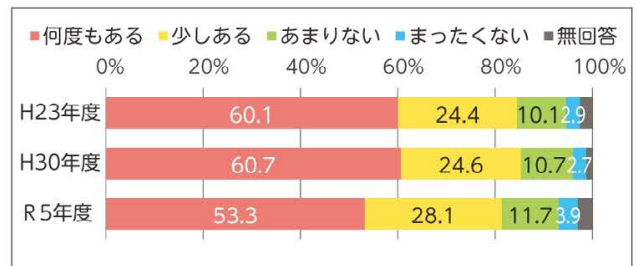
家の人と一緒に地域の祭りや行事に参加した経験が多い小学生は、自分のことが好きな割合が高くなっていますが、コロナ禍を境に参加したことがある小学生は減少しています。

また、新しいことにチャレンジすることが好きな小学生もコロナ禍を境に減少しており、住んでいる地域で取り組んでみたいことについて、「特にしたいことはない」と答えた小学生の割合が増加しています。

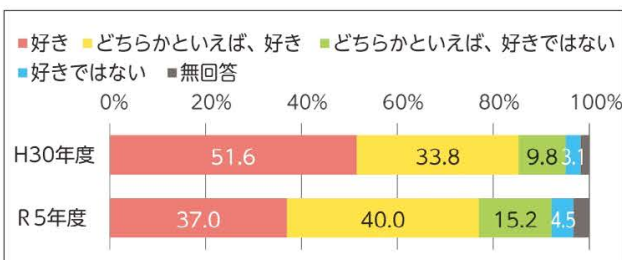
【「家の人と一緒に地域の祭りや行事に参加したこと」と「自分のことが好き」との関係(小学生)】



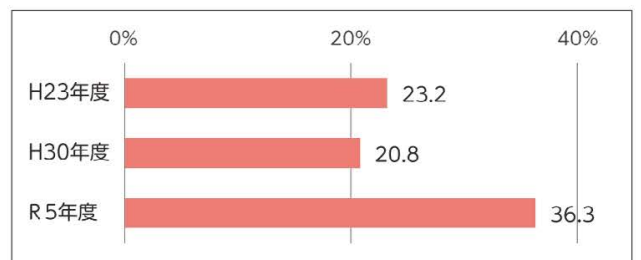
【家の人と一緒に地域の祭りや行事に参加したことがあるか(小学生)】



【新しいことにチャレンジすることが好きか(小学生)】



【住んでいる地域で取り組んでみたいことについて「特にしたいことはない」と答えた割合(小学生)】



※<第1章の概要>に掲載の図表は、「三重県子ども条例に基づく調査<子ども調査>」より作成

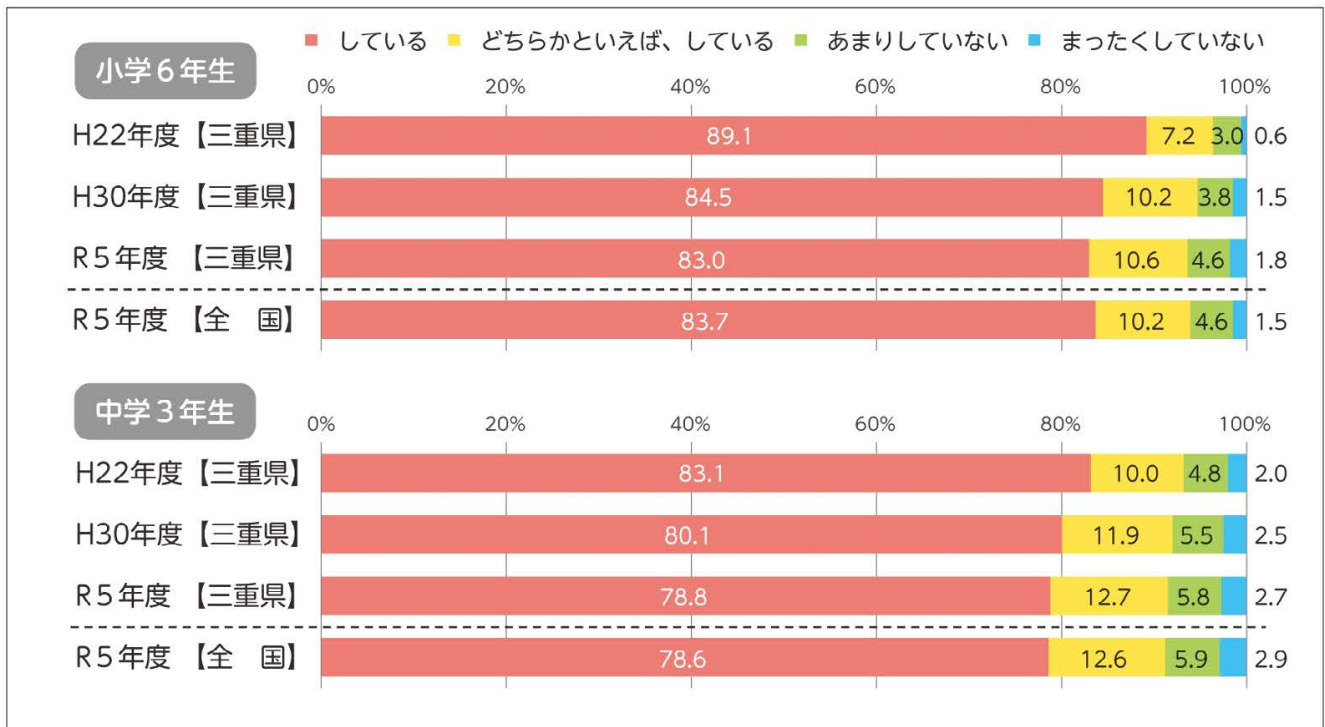
1 基本的生活習慣

朝食を毎日食べている子どもは約9割

朝食を毎日「食べている」または「どちらかといえば、食べている」と肯定的に答えた小学生は93.6%、中学生は91.5%となっており、全国とほぼ同じ状況です。朝食を毎日食べている子どもの割合はやや減少しています。

※わかりやすくするため、調査上の選択肢とは異なる表現で説明文を記載しています。

■ 図表1 朝食を毎日食べていますか



資料：文部科学省「全国学力・学習状況調査」

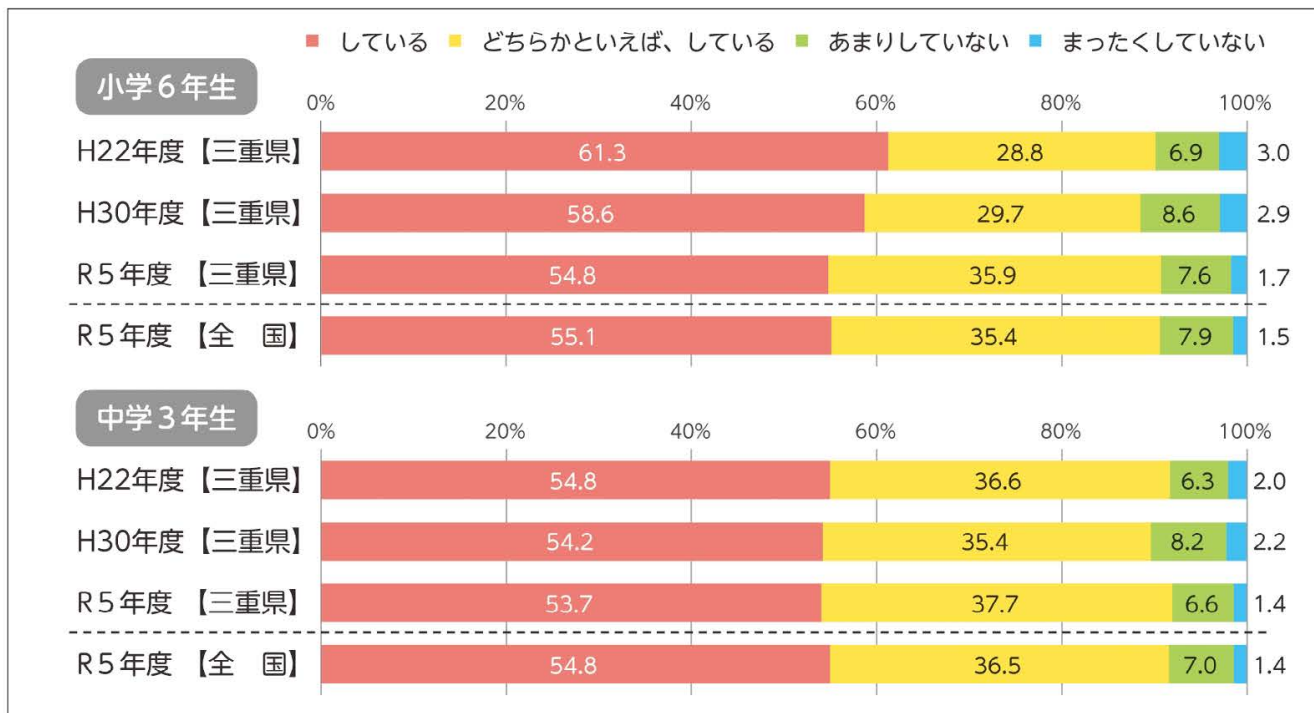
毎日同じくらいの時刻に起きている子どもは約9割、寝ている子どもは約8割

毎日同じくらいの時刻に「起きている」または「どちらかといえば、起きている」と肯定的に答えた小学生は90.7%、中学生は91.4%となっており、全国とほぼ同じ状況です。

毎日同じくらいの時刻に「寝ている」または「どちらかといえば、寝ている」と肯定的に答えた小学生は80.1%、中学生は78.3%となっており、全国とほぼ同じ状況です。中学生は、毎日同じくらいの時刻に寝ている割合が増加傾向です。

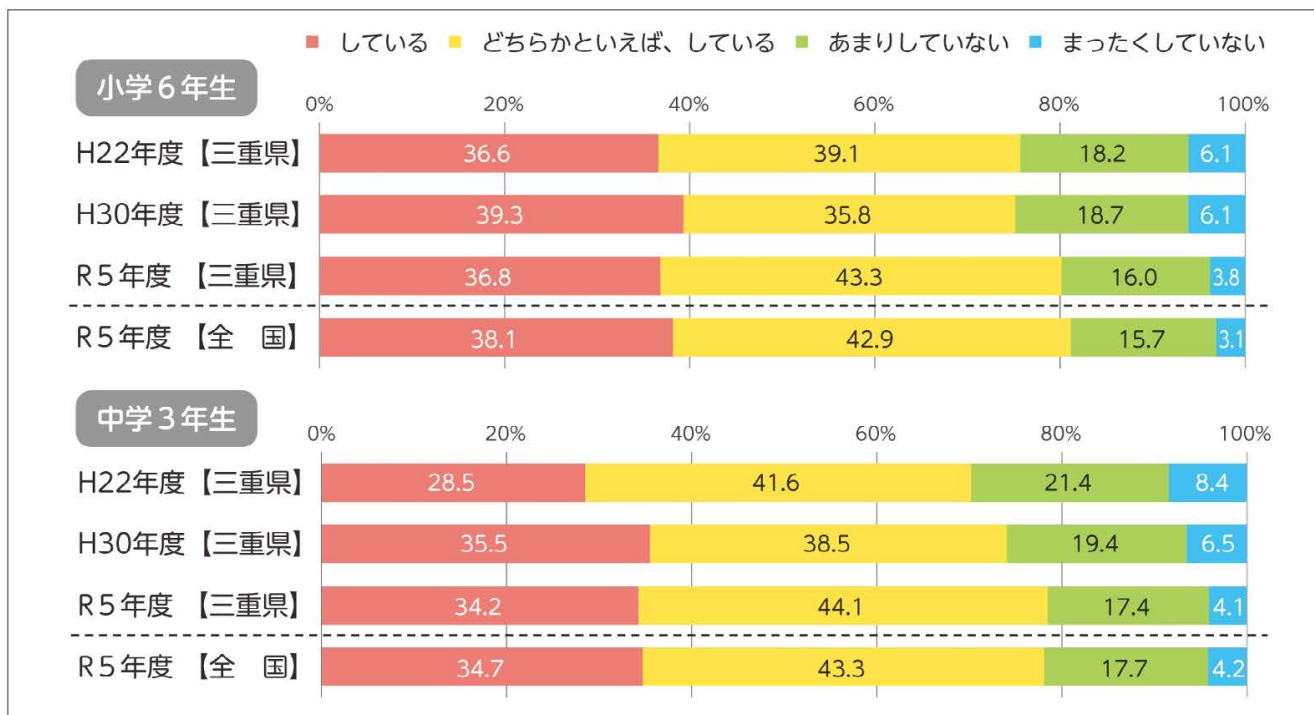
※わかりやすくするため、調査上の選択肢とは異なる表現で説明文を記載しています。

■ 図表2 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



資料：文部科学省「全国学力・学習状況調査」

■ 図表3 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか

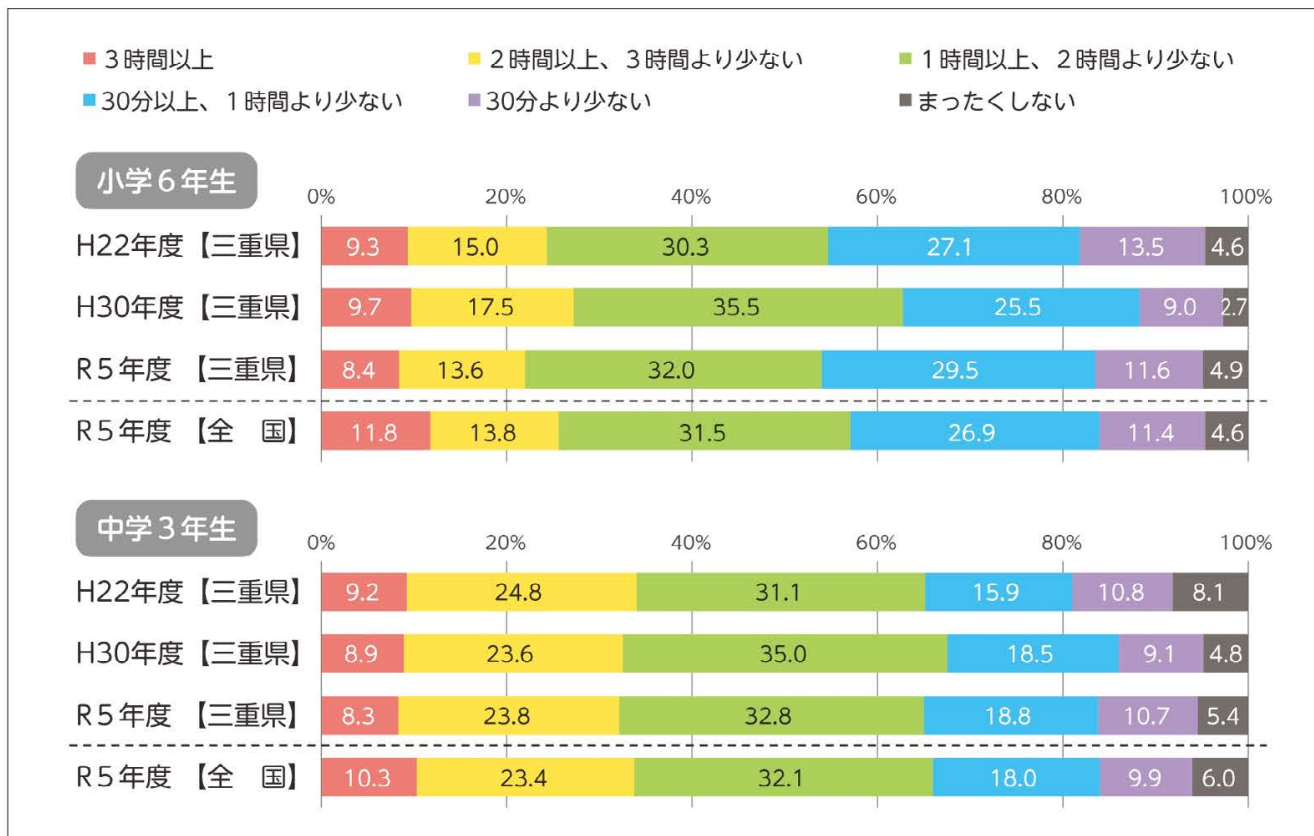


資料：文部科学省「全国学力・学習状況調査」

平日に学校の授業時間以外に1時間以上勉強している割合は、小学生で約5割、中学生で約6割

学校の授業時間以外の平日1日当たりの勉強時間について、1時間以上の割合は、小学生で54.0%、中学生で64.9%となっており、全国より低くなっています。また、平成30年度と比較すると、小学生は8.7ポイント、中学生は2.6ポイント低くなっています。

■図表4 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



資料：文部科学省「全国学力・学習状況調査」

※平成22年度の設問は「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」

平成30年度の設問は「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)」

子どもを支援する取組を行っているNPOの方にお聞きしました。

●学習支援について

私たちが運営する学習支援「かな塾」は、みんなで宿題に取り組むことで学習習慣をつけることを目的に始めました。対象者を限定することなく、誰もが来ることができる居場所としていますが、通ってくる子どもの家庭の中には、保護者が仕事や他のきょうだいの子育てで多忙であり、十分に時間をかけて子どもと向き合うことが難しいケースも少なくありません。

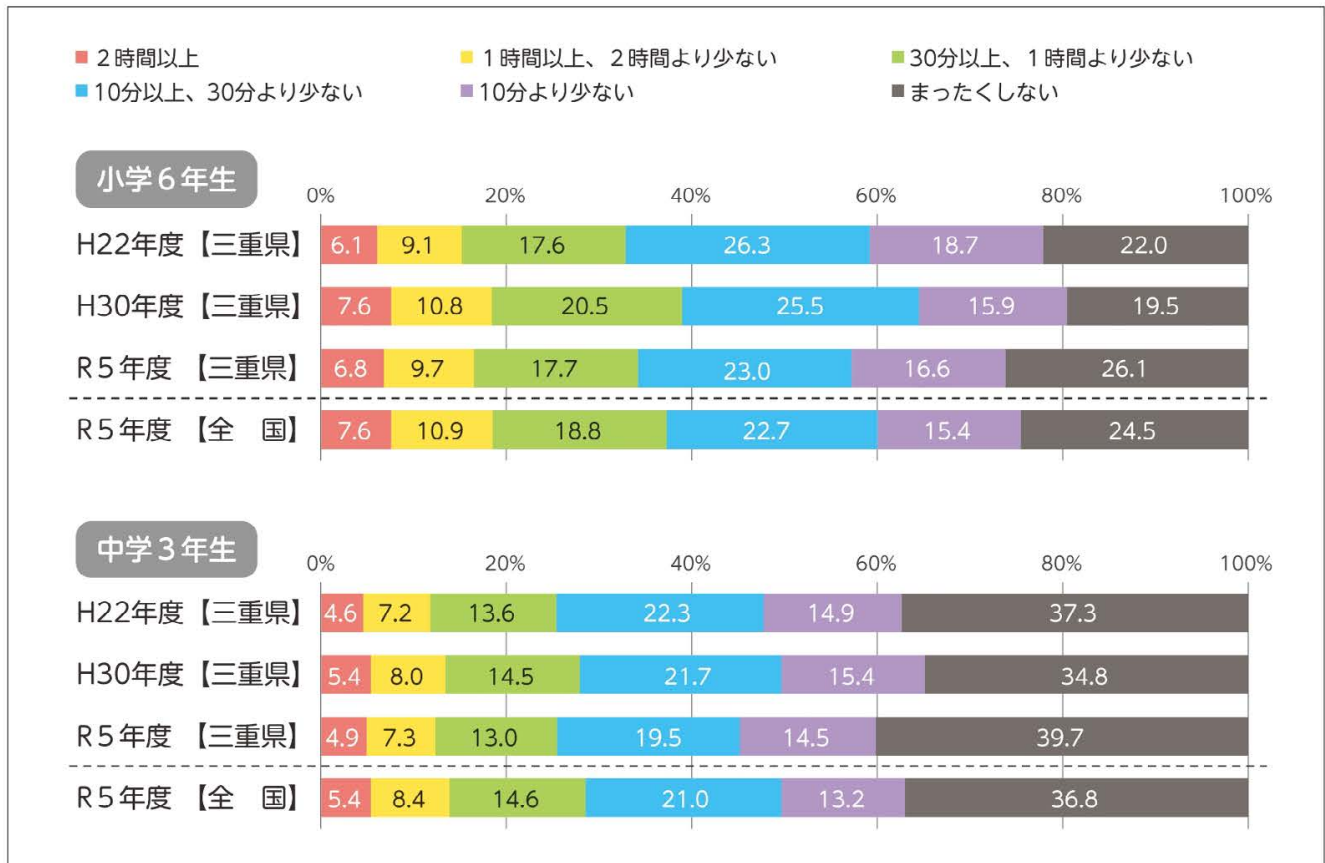
「自分のことを見てほしい」、「向き合ってほしい」というサインを送っているように感じる子どもが多いです。また、最近は発達に課題のある子どもが増え、その特性も多様になっています。集団では、気持ちをうまく表現できず、望ましくない言動をする子どもも増えているように感じます。また、発達の課題を問わず、支援を必要としている子どもと、そうでない子どもの差が広がっているように思います。子どもの声を聞き、一人ひとりに寄り添いながら、学んだり、遊んだりできるように、以前よりスタッフの人数を増やして対応しています。

(NPO 法人 玉絆)

平日に学校の授業時間以外に読書をまったくしない割合は、小学生で約3割、中学生で約4割

学校の授業時間以外の平日1日当たりの読書時間について、「まったくしない」と答えた割合は、小学生で26.1%、中学生で39.7%となっており、全国より高くなっています。また、平成30年度と比較すると、小学生は6.6ポイント、中学生は4.9ポイント高くなっています。

■ 図表5 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をするか(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)



資料：文部科学省「全国学力・学習状況調査」

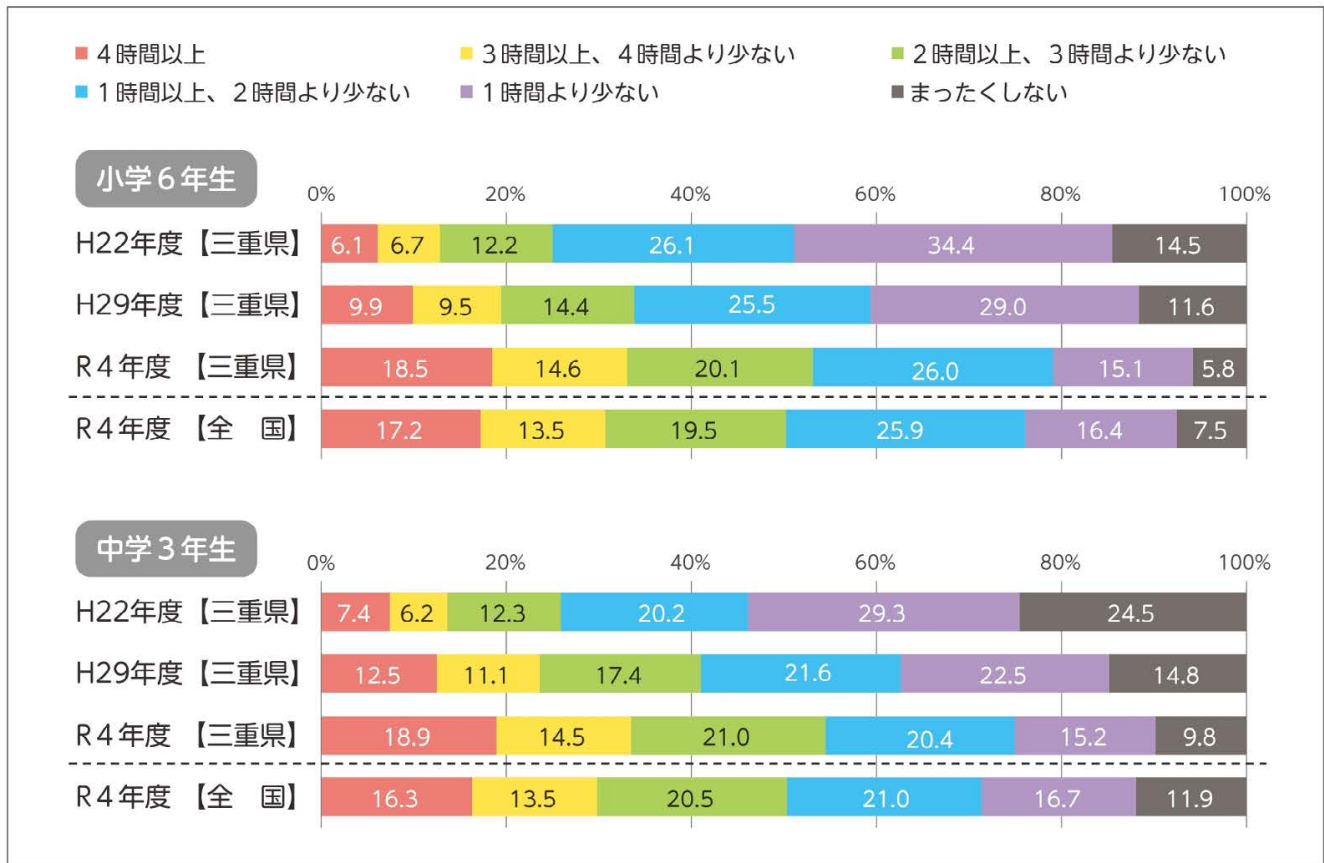
※平成22年度の設問は「家や図書館で、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をするか」

平成30年度の設問は「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をするか。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)」

平日にテレビゲームを3時間以上している子どもの割合は、約3割で増加している

平日1日当たりのテレビゲームをする時間について、3時間以上の割合は、小学生で33.1%、中学生で33.4%となっており、全国より高くなっています。また、平成29年度と比較すると、小学生は13.7ポイント、中学生は9.8ポイント高くなっています。

■ 図表6 普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか



資料：文部科学省「全国学力・学習状況調査」

※平成22年度の設問は「普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか」

放課後や週末の過ごし方は、小学生、中学生ともに、「家でテレビや動画を見たり、ゲームをしたり、SNS を利用したりしている」の割合が最も高い

放課後や週末の過ごし方について、小学生は「家でテレビや動画を見たり、ゲームをしたり、SNS を利用したりしている」の割合が83.2%と最も高く、次いで「家族と過ごしている」が73.7%、「友達と遊んでいる」が60.3%となっています。中学生も「家でテレビや動画を見たり、ゲームをしたり、SNS を利用したりしている」の割合が89.7%と最も高く、次いで「学校の部活動に参加している」が80.2%、「家族と過ごしている」が67.2%となっています。小学生、中学生ともに、全国とほぼ同じ状況です。

■図表7 放課後や週末に何をしておこなうことが多いですか(複数回答)

項目	小学6年生		項目	中学3年生	
	R4年度【三重県】	R4年度【全国】		R4年度【三重県】	R4年度【全国】
家で勉強や読書をしている	48.2	52.2	家で勉強や読書をしている	46.5	47.9
放課後子供教室や放課後児童クラブ(学童保育)に参加している	5.6	4.7	学校の部活動に参加している	② 80.2	② 73.9
地域の活動に参加している(地域学校協働本部や地域住民などによる学習・体験プログラムを含む)	3.3	3.4	地域の活動に参加している(地域学校協働本部や地域住民などによる学習・体験プログラムを含む)	2.0	1.8
学習塾など学校や家以外の場所で勉強している	22.5	24.1	学習塾など学校や家以外の場所で勉強している	38.0	36.8
習い事(スポーツに関する習い事を除く)をしている	39.7	36.3	習い事(スポーツに関する習い事を除く)をしている	22.6	19.8
スポーツ(スポーツに関する習い事を含む)をしている	43.3	42.7	スポーツ(スポーツに関する習い事を含む)をしている	29.0	27.3
家でテレビや動画を見たり、ゲームをしたり、SNSを利用したりしている	① 83.2	① 82.1	家でテレビや動画を見たり、ゲームをしたり、SNSを利用したりしている	① 89.7	① 88.0
家族と過ごしている	② 73.7	② 72.5	家族と過ごしている	③ 67.2	③ 63.4
友達と遊んでいる	③ 60.3	③ 61.6	友達と遊んでいる	58.8	54.6
その他	0.1	0.1	その他	0.0	0.0
無回答	0.2	0.2	無回答	0.2	0.1

資料：文部科学省「全国学力・学習状況調査」
 ※○で囲んだ数字は、上位3項目の順位を表しています。

2

自己肯定感

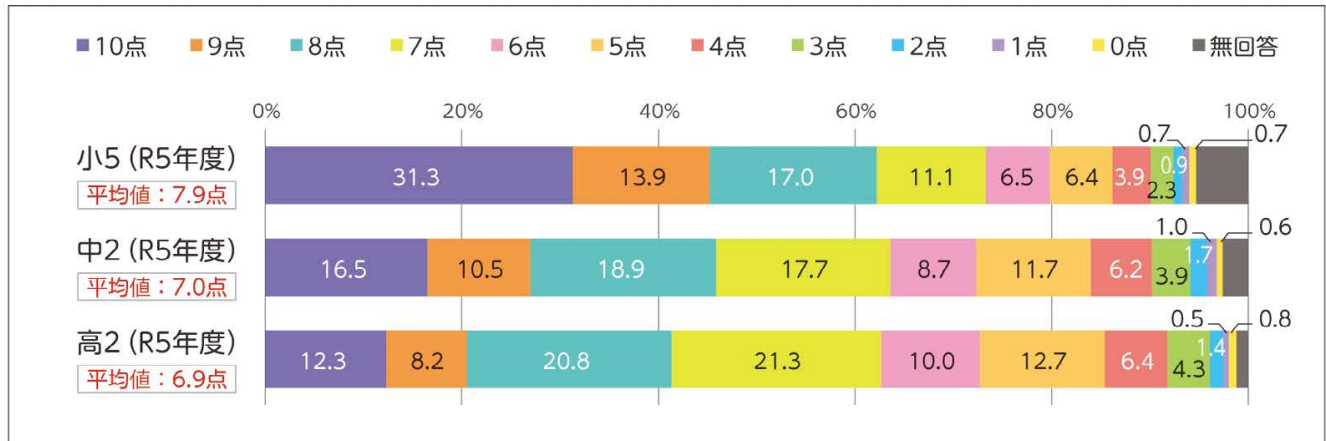
最近の生活満足度の平均値は、小学生は7.9点、中学生は7.0点、高校生は6.9点

最近の生活満足度について、小学生の平均値は7.9点となり、中学生、高校生より約1点高くなっています。また、点数別にみると「10点」の割合が31.3%と最も高くなっています。

中学生は平均値が7.0点となり、点数別にみると「8点」の割合が18.9%と最も高くなっています。高校生は平均値が6.9点となり、点数別にみると「7点」の割合が21.3%と最も高くなっています。

小学生、中学生、高校生と上がるにつれて、「10点」及び「9点」の割合が低下しています。

■ 図表8 全体として、あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか



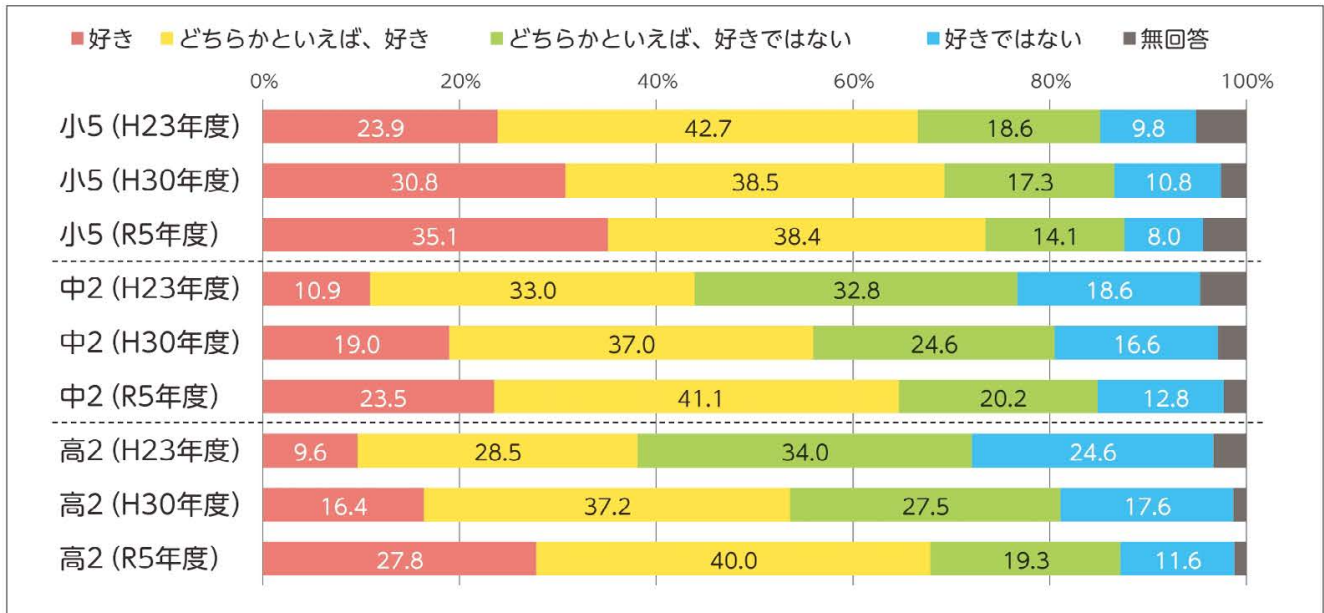
資料：「三重県子ども条例に基づく調査〈子ども調査〉」

※ □ で囲んだ数字は、最近の生活満足度の平均値を表しています。

自分のことが好きな小学生は約7割、中学生は約6割、高校生は約7割で増加している

自分のことが好きかについて、「好き」または「どちらかといえば、好き」と肯定的に答えた小学生は73.5%、中学生は64.6%、高校生は67.8%となっています。小学生、中学生、高校生ともに、「好き」または「どちらかといえば、好き」と肯定的に答えた割合は増加傾向にあり、平成23年度と比較すると、小学生は6.9ポイント、中学生は20.7ポイント、高校生は29.7ポイント高くなっています。

■図表9 あなたは、自分のことが好きですか

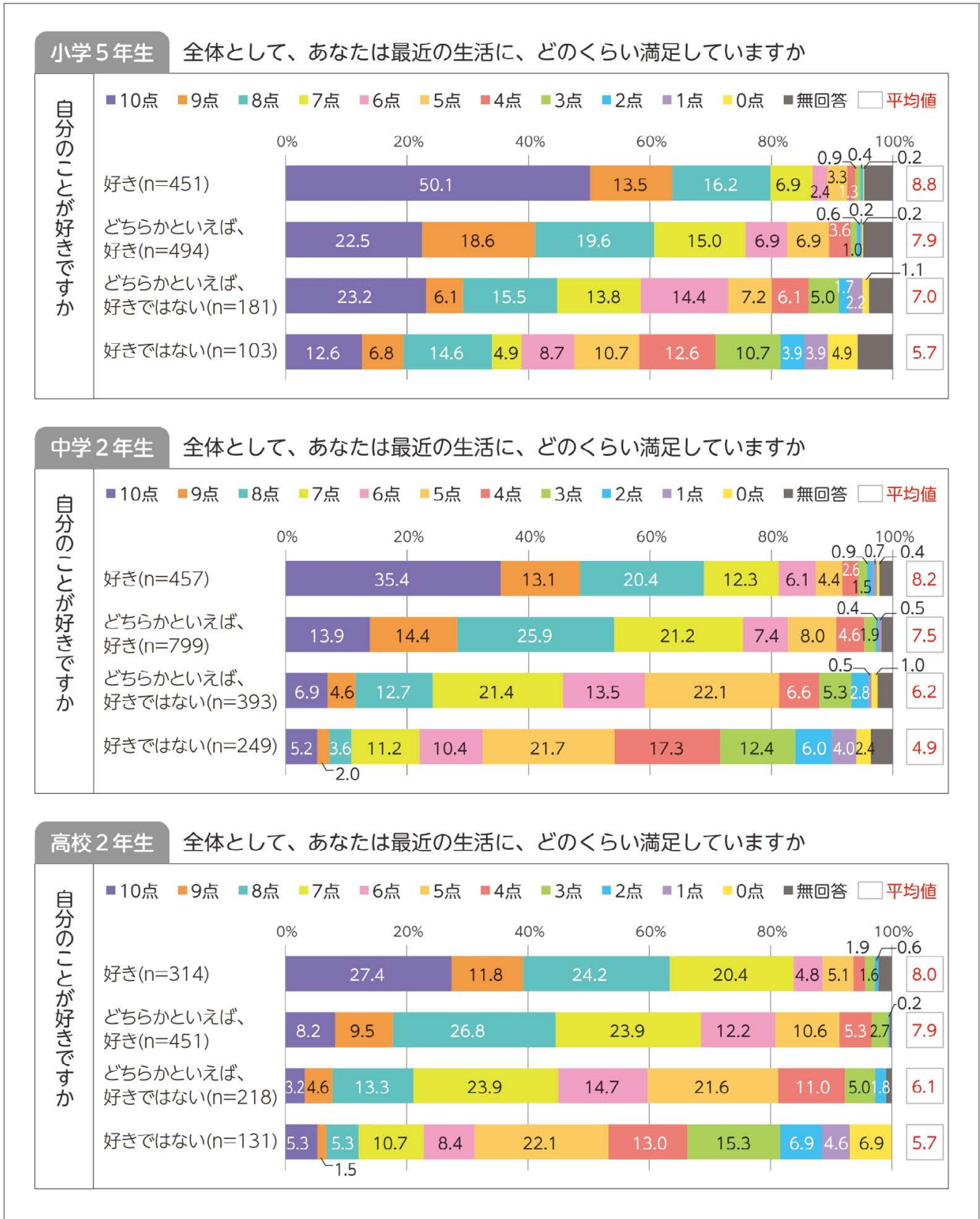


資料：「三重県子ども条例に基づく調査〈子ども調査〉」

自分のことが好きな子どもは、最近の生活満足度の平均値が高い

「自分のことが好き」と「最近の生活満足度」の関係について、小学生、中学生、高校生ともに、自分のことが「好き」と答えた子どもは、「好きではない」と答えた子どもより、最近の生活満足度の平均値が高くなっており、その差は小学生、中学生では3点以上となっています。特に、自分のことが「好き」と答えた小学生は、最近の生活満足度が「10点」の割合が50.1%と過半数を占めています。

■ 図表10 「自分のことが好き」と「最近の生活満足度」の関係



資料：「三重県子ども条例に基づく調査〈子ども調査〉」

※ □で囲んだ数字は、最近の生活満足度の平均値を表しています。

ほっとする場所について、小学生は「自分の家で、家族と過ごす場所」、中学生、高校生は「自分の家で、一人で過ごせる場所」の割合が最も高い

ほっとする場所について、小学生は「自分の家で、家族と過ごす場所」、中学生、高校生は「自分の家で、一人で過ごせる場所」の割合が最も高くなっています。小学生、中学生、高校生ともに、「自分の家で、一人で過ごせる場所」、「自分の家で、家族と過ごす場所」、「おじいさんやおばあさんの家」が上位となっています。また、ほっとする場所が「特にない」と答えた子どもの割合は、小学生で2.4%、中学生で2.1%、高校生で1.8%となり、平成30年度と比較するとやや低くなっています。

■図表11 あなたがほっとする場所はどこなところですか(複数回答)

	小学5年生			中学2年生			高校2年生		
	H23年度	H30年度	R5年度	H23年度	H30年度	R5年度	H23年度	H30年度	R5年度
自分の家で、一人で過ごせる場所※1	—	② 54.9	② 55.8	—	① 80.7	① 83.1	—	① 88.1	① 88.7
自分の家で、家族と過ごす場所※2	—	① 64.1	① 69.3	—	② 48.4	② 52.1	—	② 41.6	② 49.8
自分の家※3	① 83.7	—	—	① 85.9	—	—	① 84.6	—	—
学校	17.2	22.0	25.3	② 18.8	22.5	21.5	③ 14.0	11.9	13.2
友だちの家	③ 19.7	25.4	26.8	③ 17.5	23.8	26.8	② 17.5	③ 15.8	14.5
おじいさんやおばあさんの家	② 35.1	③ 38.8	③ 37.4	③ 17.5	③ 24.1	③ 27.5	12.0	13.4	③ 15.0
図書館	13.1	26.9	18.9	7.8	17.3	14.5	5.9	6.5	9.0
公園	6.3	11.5	14.4	3.3	7.8	10.5	3.3	4.2	5.7
学習塾※4	2.2	5.3	5.6	1.8	5.2	4.8	0.8	2.4	3.1
児童館、公民館※5	1.0	4.4	3.8	0.0	1.2	1.1	0.1	0.2	0.3
子ども食堂、勉強を無料でみてる場所※6	—	—	1.5	—	—	0.4	—	—	0.3
習い事の教室、スポーツクラブ	8.5	14.2	13.9	3.8	7.3	7.7	2.5	2.4	1.8
フリースクール※7	0.0	1.1	0.4	0.2	1.3	0.3	0.3	0.6	0.1
コンビニエンスストア	1.5	6.2	5.1	2.2	5.6	7.3	1.6	3.1	2.7
ゲームセンター、カラオケボックス	8.6	15.9	13.6	7.1	12.1	13.8	6.6	9.7	8.1
ファストフードの店、ファミリーレストラン	2.8	7.1	6.9	2.1	4.0	8.4	2.4	2.4	4.3
その他	5.4	5.9	4.2	5.4	4.1	3.6	6.5	3.2	2.0
特にない	1.9	2.7	2.4	2.6	2.4	2.1	2.4	2.1	1.8
無回答	5.5	0.6	1.4	4.7	0.6	1.2	4.6	0.2	0.4

資料：「三重県子ども条例に基づく調査〈子ども調査〉」

※○で囲んだ数字は、上位3項目の順位を表しています。

※平成23年度は、回答の選択を3つまでとしていたため、比較する際には注意が必要です。

※1 平成23年度にこの選択肢はありません。

※2 平成23年度にこの選択肢はありません。

※3 平成30年度、令和5年度にこの選択肢はありません。

※4 平成23年度、平成30年度は「塾」

※5 平成23年度、平成30年度は「児童館」

※6 平成23年度、平成30年度にこの選択肢はありません。

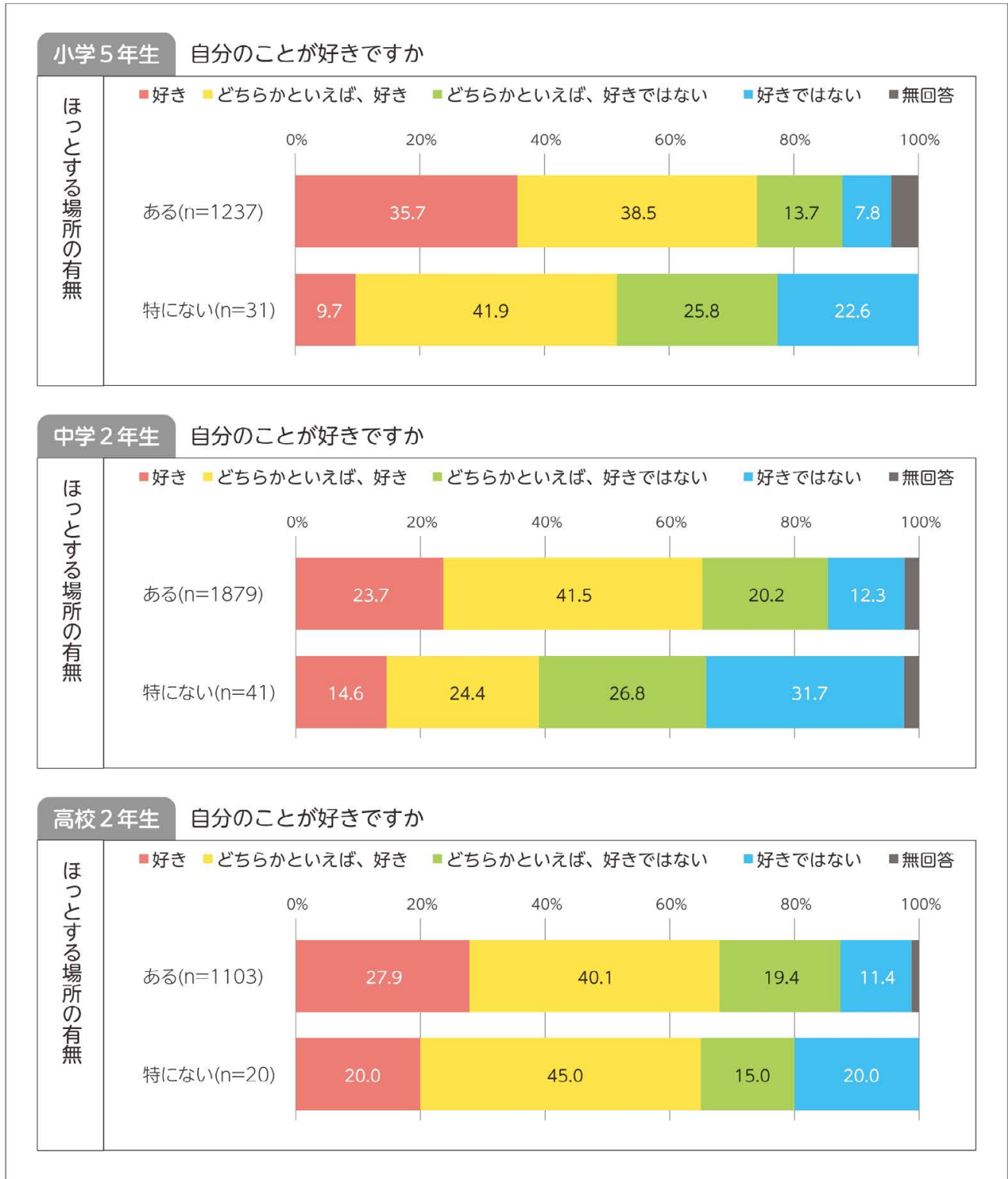
※7 平成23年度、平成30年度は「フリースクール、フリースペース」

ほっとする場所がある子どもは、特にない子どもより、自分のことが好きな割合が高い

「ほっとする場所の有無」と「自分のことが好き」の関係について、小学生、中学生ともに、ほっとする場所がある子どもは、「特にない」と答えた子どもより、自分のことが「好き」または「どちらかといえば、好き」と肯定的に答えた割合が20ポイント以上高くなっています。

※「特にない」は、「あなたがほっとする場所はどこなところですか」(P19)の選択肢のうち、「特にない」と回答した人を表しています。「ある」は、同設問について、「特にない」と回答した人と無回答の人を除く全回答者を表しています。

■ 図表12 「ほっとする場所の有無」と「自分のことが好き」の関係



資料：「三重県子ども条例に基づく調査（子ども調査）」

つらい気持ちになるときは、小学生は「友だちと仲良くできないとき」、中学生、高校生は「テストの点や成績が悪いとき」の割合が最も高い

つらい気持ちになるときについて、小学生は「友だちと仲良くできないとき」、中学生、高校生は「テストの点や成績が悪いとき」の割合が最も高くなっています。小学生、中学生、高校生ともに、「友だちと仲良くできないとき」の割合が、平成30年度と比較して10ポイント以上低くなっています。また、小学生は「授業がよく分からないとき」「テストの点や成績が悪いとき」「自分の意見を聞いてもらえないとき」「いじめられたとき」の割合が平成30年度と比較してそれぞれ10ポイント以上低くなっている一方、「つらい気持ちになったことはない」の割合が9.9ポイント高くなっています。

なお、中学生、高校生についても「つらい気持ちになったことはない」の割合が上昇傾向にあります。

■ 図表13 あなたがつらい気持ちになるのはどんなときですか(複数回答)

	小学5年生			中学2年生			高校2年生		
	H23年度	H30年度	R5年度	H23年度	H30年度	R5年度	H23年度	H30年度	R5年度
自分と家族との関係がうまくいっていないとき ※1	—	—	22.0	—	—	27.1	—	—	30.1
親(保護者)同士の関係がうまくいっていないとき ※2	—	—	11.3	—	—	14.9	—	—	16.9
[上の2つ以外で] 家族内の関係がうまくいっていないとき ※3	—	—	5.2	—	—	6.1	—	—	5.9
家の人と仲良くできないとき ※4	③ 39.3	③ 38.2	—	28.4	30.9	—	31.9	27.3	—
友だちと仲良くできないとき	① 64.8	① 58.1	① 40.6	② 62.9	② 59.4	② 44.8	① 61.4	② 58.0	② 47.3
授業がよく分からないとき	34.5	34.7	③ 22.3	③ 34.4	③ 33.2	③ 31.2	27.1	33.6	33.2
テストの点や成績が悪いとき	② 55.5	② 52.0	② 37.9	① 65.9	① 68.0	① 57.6	② 50.2	① 60.1	① 57.1
受験や進路のことですぐうまくいかないとき	11.3	14.4	6.3	27.6	20.0	21.4	③ 40.7	③ 36.3	③ 39.2
自分の意見を聞いてもらえないとき	32.1	31.9	21.2	22.8	25.8	23.2	28.1	22.6	23.3
クラブ活動(部活動)の練習などが厳しいとき	13.3	13.5	6.1	27.2	30.7	21.3	19.4	25.7	19.9
勉強やクラブ活動(部活動)に必要なものを買ってもらえないとき ※5	—	—	2.4	—	—	3.9	—	—	3.0
自分の容姿(外見)のことで悩むとき ※6	—	15.4	14.5	—	23.9	26.9	—	29.0	31.1
いじめられたとき ※7	—	36.6	21.8	—	22.4	15.1	—	15.5	10.8
その他	8.2	5.8	5.1	2.8	5.3	3.9	6.3	4.5	2.2
つらい気持ちになったことはない	4.0	7.5	17.4	2.9	5.0	10.2	3.4	4.2	9.2
無回答	2.8	0.8	5.5	2.6	0.9	4.5	3.6	1.1	1.6

資料：「三重県子ども条例に基づく調査(子ども調査)」

※○で囲んだ数字は、上位3項目の順位を表しています。

※1 平成23年度、平成30年度にこの選択肢はありません。

※2 平成23年度、平成30年度にこの選択肢はありません。

※3 平成23年度、平成30年度にこの選択肢はありません。

※4 令和5年度にこの選択肢はありません。

※5 平成23年度、平成30年度にこの選択肢はありません。

※6 平成23年度にこの選択肢はありません。

※7 平成23年度にこの選択肢はありません。

※8 平成23年度にこの選択肢はありません。

困ったことや悩みがあるときの相談相手は、小学生は「親（保護者）」、中学生、高校生は「友だち」の割合が最も高い

困ったことや悩みがあるときの相談相手について、小学生は「親（保護者）」の割合が72.1%で最も高く、次いで「友だち」（51.2%）、「学校の先生」（32.0%）となっています。中学生は「友だち」の割合が62.5%で最も高く、次いで「親（保護者）」（58.3%）、「学校の先生」（26.0%）となっています。高校生は「友だち」の割合が72.1%で最も高く、次いで「親（保護者）」（61.3%）、「兄弟姉妹」（22.4%）となっています。平成23年度と比較すると、小学生、中学生は「学校の先生」、高校生は「親（保護者）」の割合がそれぞれ10ポイント以上高くなっています。また、「誰にも相談しない」の割合は、平成30年度と比較して、小学生で2.2ポイント低くなっています。

■ 図表14 あなたは、困ったことや悩みがあるとき、誰に相談しますか、あるいはしようと思いますか（複数回答）

	小学5年生			中学2年生			高校2年生		
	H23年度	H30年度	R5年度	H23年度	H30年度	R5年度	H23年度	H30年度	R5年度
親（保護者）	① 70.8	① 70.4	① 72.1	② 55.8	② 57.9	② 58.3	② 50.2	② 55.7	② 61.3
兄弟姉妹	③ 22.9	22.9	19.7	③ 18.7	16.8	20.4	③ 20.0	③ 17.6	③ 22.4
おじいさん、おばあさん	18.3	16.4	12.7	6.6	9.0	9.6	4.9	4.2	5.4
親せき ※1	—	6.2	4.7	—	3.6	4.7	—	2.1	2.2
友だち	② 58.9	② 53.7	② 51.2	① 67.0	① 68.6	① 62.5	① 70.2	① 74.0	① 72.1
学校の先生	19.1	③ 24.1	③ 32.0	12.7	③ 21.6	③ 26.0	12.7	12.3	16.6
スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー ※2	—	—	3.0	—	—	3.5	—	—	2.5
児童福祉施設の先生・スタッフ	0.1	1.7	0.7	0.4	0.4	0.7	0.3	0.2	0.3
フリースクールのスタッフ	0.0	0.4	0.2	0.2	0.3	0.2	0.4	0.4	0.0
塾や習い事の先生、スポーツクラブのコーチ	4.7	3.6	3.0	4.6	5.1	4.3	2.9	3.4	4.3
近所の知り合いの人	1.0	2.0	1.8	0.7	0.5	0.9	1.1	0.2	0.4
専門の相談機関（病院や児童相談所など）	0.8	1.1	1.3	0.6	0.5	1.0	0.6	0.6	0.9
電話やメールでの相談 ※3	—	2.7	2.4	—	3.7	3.1	—	1.8	1.3
インターネット（掲示板など）での相談	1.6	1.1	1.3	3.8	3.0	3.9	4.7	2.9	3.0
学童保育や児童館のスタッフ ※4	0.3	—	—	0.4	—	—	0.3	—	—
電話での相談 ※5	0.7	—	—	1.0	—	—	1.0	—	—
その他	1.9	1.8	1.4	1.5	1.7	0.9	3.2	1.4	0.7
誰にも相談しない	11.9	11.1	8.9	11.8	12.9	13.1	10.6	11.0	11.2
無回答	1.5	0.8	6.0	2.2	0.7	5.0	2.2	0.2	2.8

資料：「三重県子ども条例に基づく調査（子ども調査）」

※○で囲んだ数字は、上位3項目の順位を表しています。

※1 平成23年度にこの選択肢はありません。

※2 平成23年度、平成30年度にこの選択肢はありません。

※3 平成23年度にこの選択肢はありません。

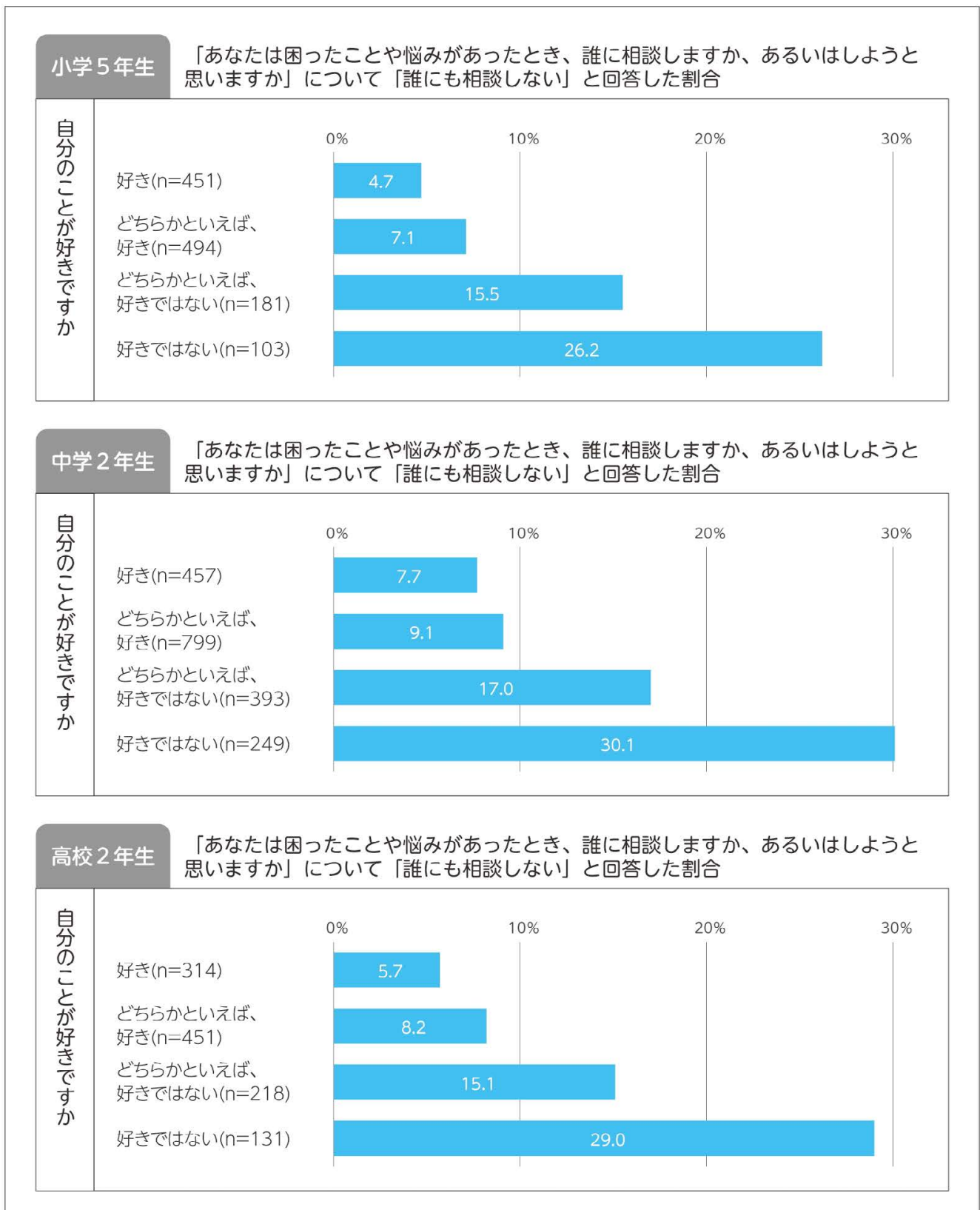
※4 平成30年度、令和5年度にこの選択肢はありません。

※5 平成30年度、令和5年度にこの選択肢はありません。

自分のことが好きではない子どもは、好きな子どもより、困ったことや悩みがあったときに誰にも相談しない割合が高い

「自分のことが好き」と「困ったことや悩みがあったときの相談相手」の関係について、小学生、中学生、高校生ともに、「自分のことが好きではない」と答えた子どもは、「好き」と答えた子どもより、「誰にも相談しない」の割合が20ポイント以上高くなっています。

■図表15 「自分のことが好き」と「困ったことや悩みがあったときの相談相手」の関係

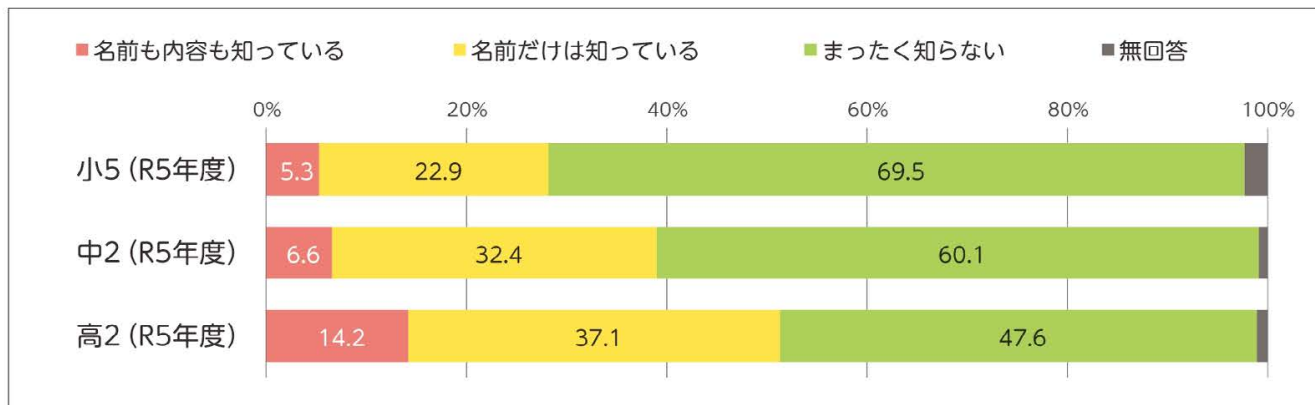


資料：「三重県子ども条例に基づく調査〈子ども調査〉」

子どもの権利の認知度は、小学生で約3割、中学生で約4割、高校生で約5割

子どもの4つの権利（生きる権利、育つ権利、守られる権利、参加する権利）について、「名前も内容も知っている」または「名前だけは知っている」と肯定的に答えた小学生は28.2%、中学生は39.0%、高校生は51.3%となっています。小学生、中学生、高校生と上がるにつれて、認知度が高くなっています。

■ 図表16 あなたは子どもの4つの権利(生きる権利、育つ権利、守られる権利、参加する権利)について知っていますか

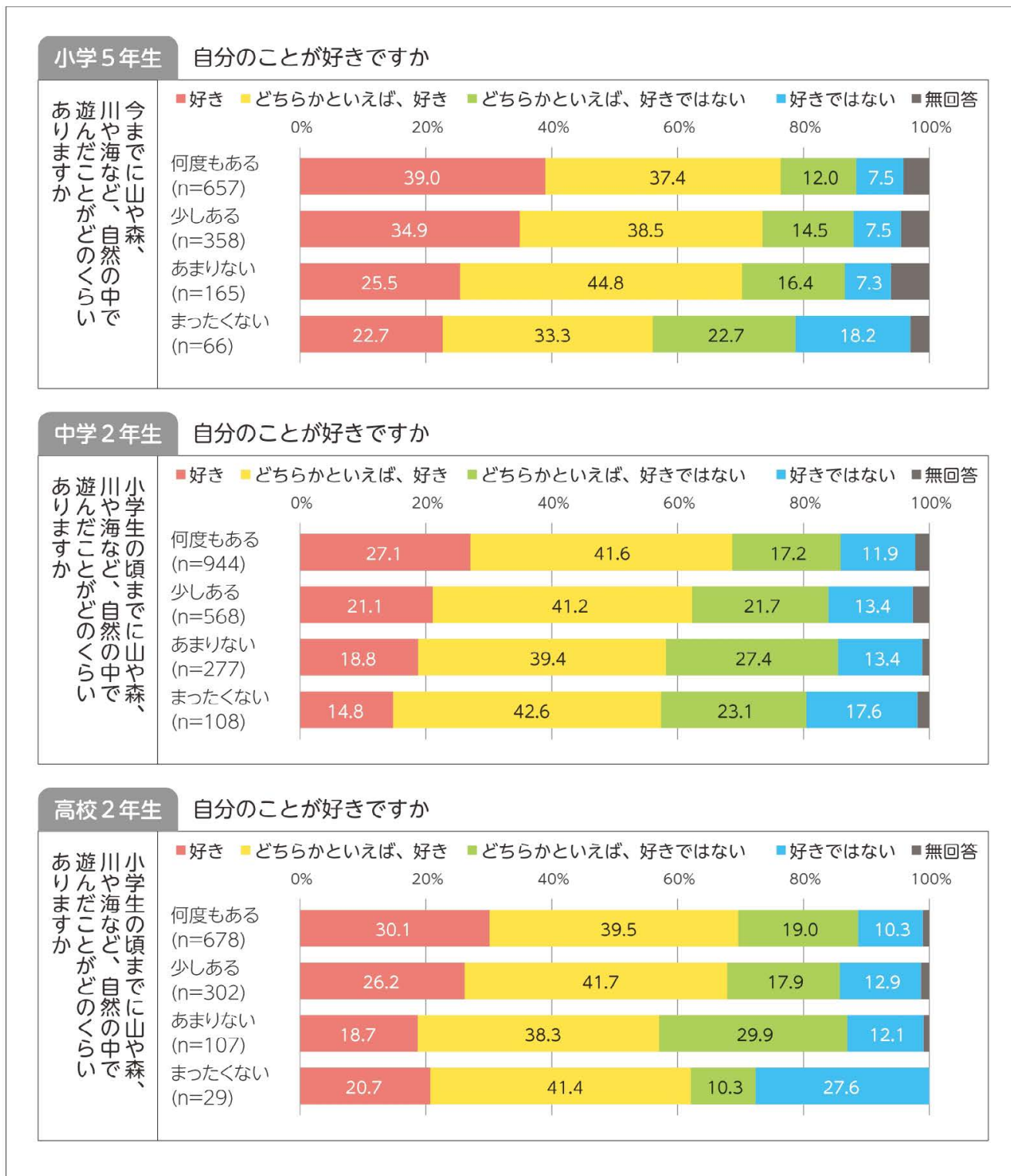


資料：「三重県子ども条例に基づく調査〈子ども調査〉」

小さい頃に、自然の中で遊んだ経験が多い子どもは、少ない子どもより、自分のことが好きな割合が高い

「小学生の頃までに自然の中で遊んだこと」と「自分のことが好き」の関係について、小学生、中学生、高校生ともに、自然の中で遊んだ経験が「何度もある」と答えた子どもは、「まったくない」と答えた子どもより、自分のことが「好き」または「どちらかといえば、好き」と肯定的に答えた割合が高くなっており、その差は小学生で20.4ポイント、中学生で11.3ポイント、高校生で7.5ポイントとなっています。

■ 図表17-1 「小学生の頃までに自然の中で遊んだこと」と「自分のことが好き」の関係

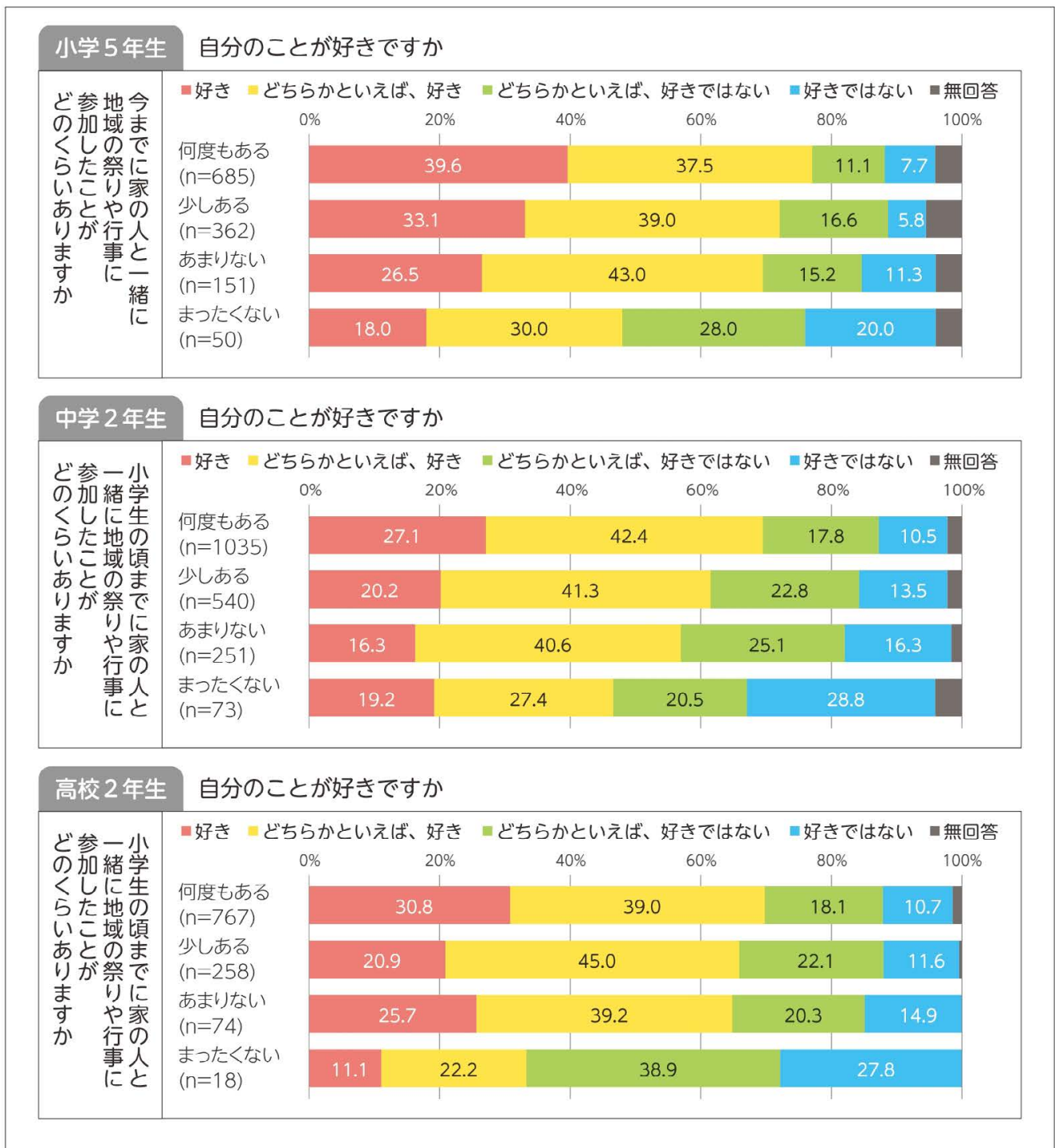


資料：「三重県子ども条例に基づく調査（子ども調査）」

小さい頃に、家の人と一緒に地域の祭りや行事に参加した経験が多い子どもは、少ない子どもより、自分のことが好きな割合が高い

「小学生の頃までに家の人と一緒に地域の祭りや行事に参加したこと」と「自分のことが好き」の関係について、小学生、中学生、高校生ともに、家の人と一緒に地域の祭りや行事に参加した経験が「何度もある」と答えた子どもは、「まったくない」と答えた子どもより、自分のことが「好き」または「どちらかといえば、好き」と肯定的に答えた割合が高くなっており、その差は小学生で29.1ポイント、中学生で22.9ポイント、高校生で36.5ポイントとなっています。また、家の人と一緒に地域の祭りや行事に参加した経験が「まったくない」と答えた子どもは、「何度もある」と答えた子どもより、自分のことが「好きではない」の割合が10ポイント以上高くなっていきます。

■ 図表17-2 「小学生の頃までに、家の人と一緒に地域の祭りや行事に参加したこと」と「自分のことが好き」の関係

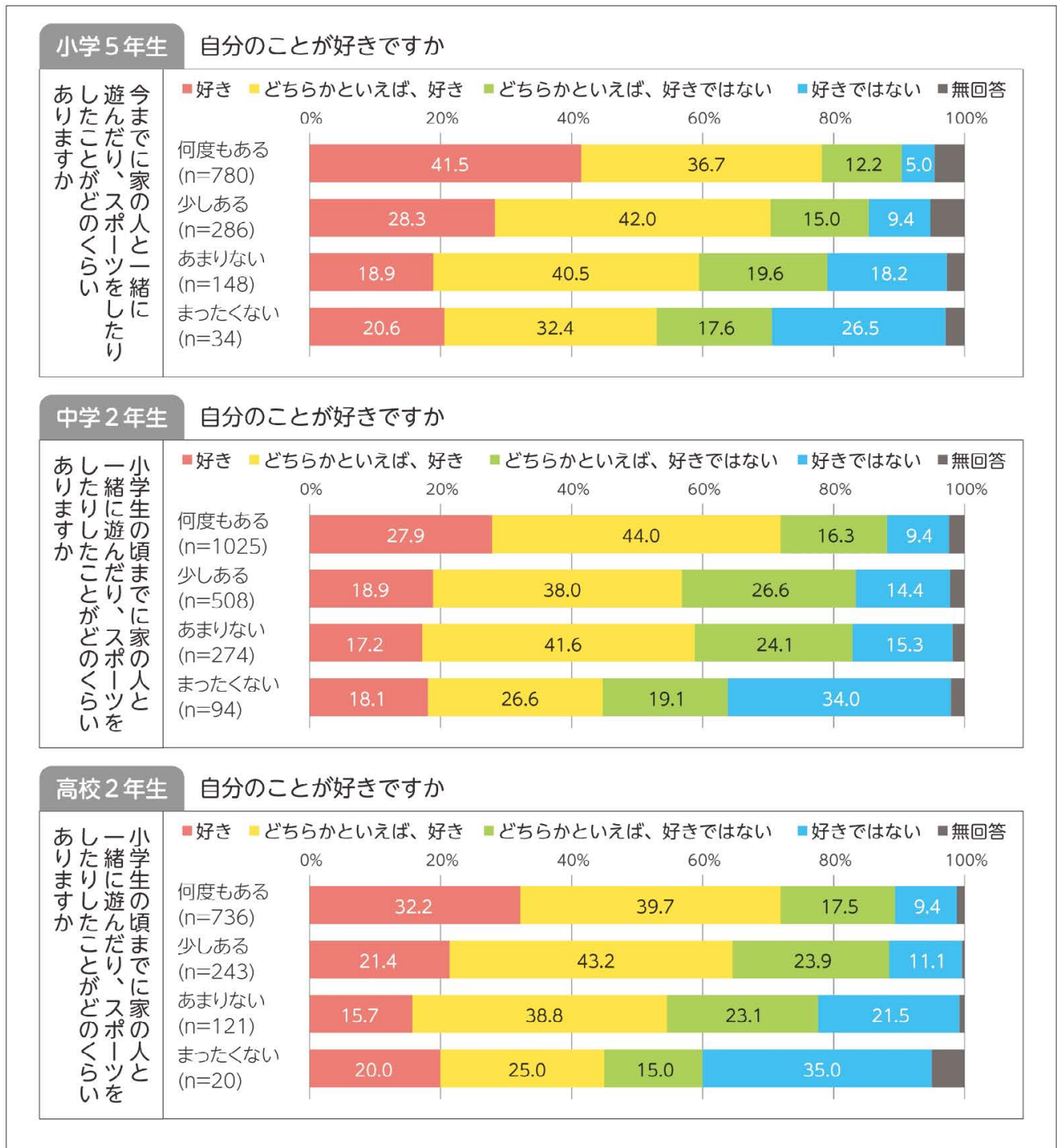


資料：「三重県子ども条例に基づく調査（子ども調査）」

小さい頃に、家の人と一緒に遊んだりスポーツをしたりした経験が多い子どもは、少ない子どもより、自分のことが好きな割合が高い

「小学生の頃までに家の人と一緒に遊んだりスポーツをしたりしたこと」と「自分のことが好き」の関係について、小学生、中学生、高校生ともに、家の人と一緒に遊んだりスポーツをしたりした経験が「何度もある」と答えた子どもは、「まったくない」と答えた子どもより、自分のことが「好き」または「どちらかといえば、好き」と肯定的に答えた割合が20ポイント以上高くなっています。また、家の人と一緒に遊んだりスポーツをしたりした経験が「まったくない」と答えた子どもは、「何度もある」と答えた子どもより、自分のことが「好きではない」の割合が20ポイント以上高くなっています。

■図表17-3 「小学生の頃までに、家の人と一緒に遊んだりスポーツをしたりしたこと」と「自分のことが好き」の関係

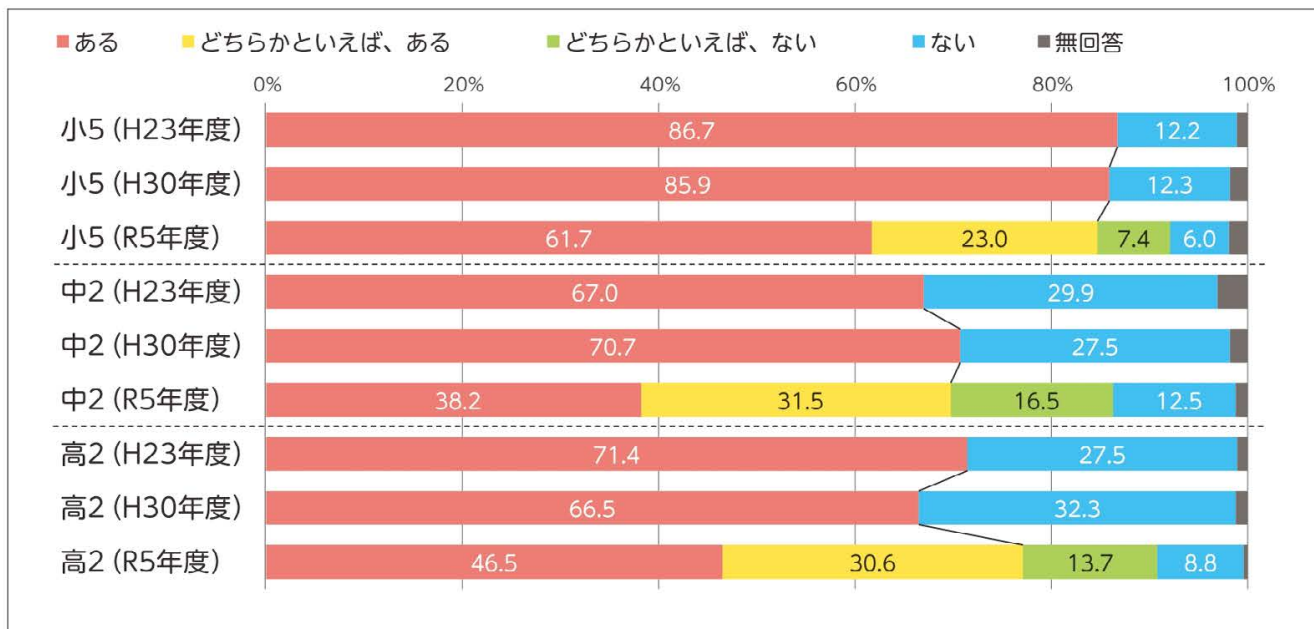


資料：「三重県子ども条例に基づく調査（子ども調査）」

夢や将来の希望があると答えた小学生は約8割、中学生は約7割、高校生は約8割

夢や将来の希望について、「ある」または「どちらかといえば、ある」と肯定的に答えた小学生は84.7%、中学生は69.7%、高校生は77.1%となっています。平成30年度と比較すると、小学生、中学生はそれぞれ1.2ポイント、1.0ポイント低くなっている一方、高校生は10.6ポイント高くなっています。

■ 図表18 あなたには、夢や将来の希望がありますか



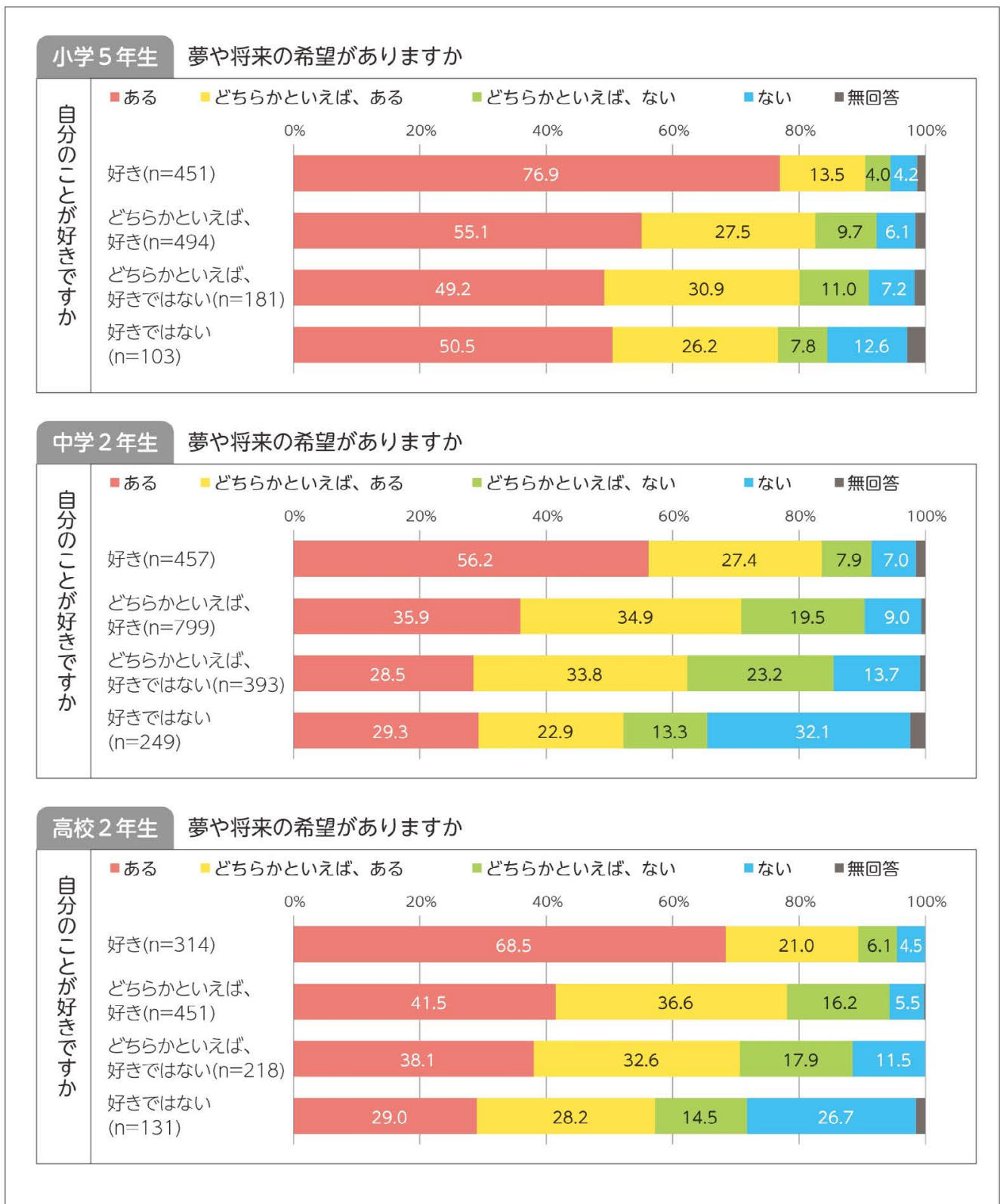
資料：「三重県子ども条例に基づく調査〈子ども調査〉」

※平成23年度、平成30年度は、選択肢を「ある」「ない」の2択としていたため、比較する際には注意が必要です。

自分のことが好きな子どもは、好きではない子どもより、夢や将来の希望がある割合が高い

「自分のことが好き」と「夢や将来の希望」の関係について、小学生、中学生、高校生ともに、自分のことが「好き」と答えた子どもは、「好きではない」と答えた子どもより、夢や将来の希望が「ある」または「どちらかといえば、ある」と肯定的に答えた割合が高くなっており、小学生で13.7ポイント、中学生で31.4ポイント、高校生で32.3ポイント高くなっています。また、中学生、高校生では、自分のことが「好きではない」と答えた子どもは、「好き」と答えた子どもより、夢や将来の希望が「ない」の割合がそれぞれ20ポイント以上高くなっています。

■ 図表19 「自分のことが好き」と「夢や将来の希望」の関係

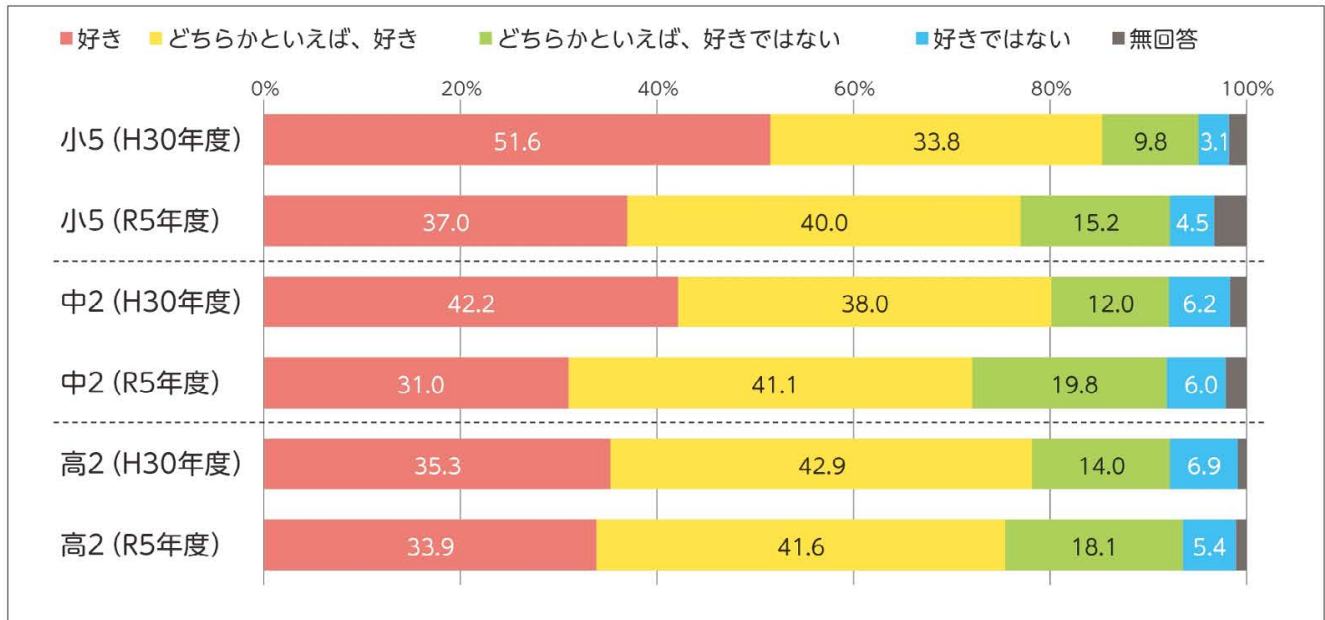


資料：「三重県子ども条例に基づく調査（子ども調査）」

新しいことにチャレンジすることが好きな小学生は約8割、中学生は約7割、高校生は約8割で減少している

新しいことにチャレンジすることについて、「好き」または「どちらかといえば、好き」と肯定的に答えた小学生は77.0%、中学生は72.1%、高校生は75.5%となっており、いずれも平成30年度より低くなっています。特に「好き」と答えた子どもの割合は、小学生で37.0%、中学生で31.0%となっており、それぞれ10ポイント以上低くなっています。

■図表20 あなたは、新しいことにチャレンジすることが好きですか



資料：「三重県子ども条例に基づく調査（子ども調査）」

子どもを支援する取組を行っているNPOの方にお聞きしました。

●チャレンジ精神が低下していることについて

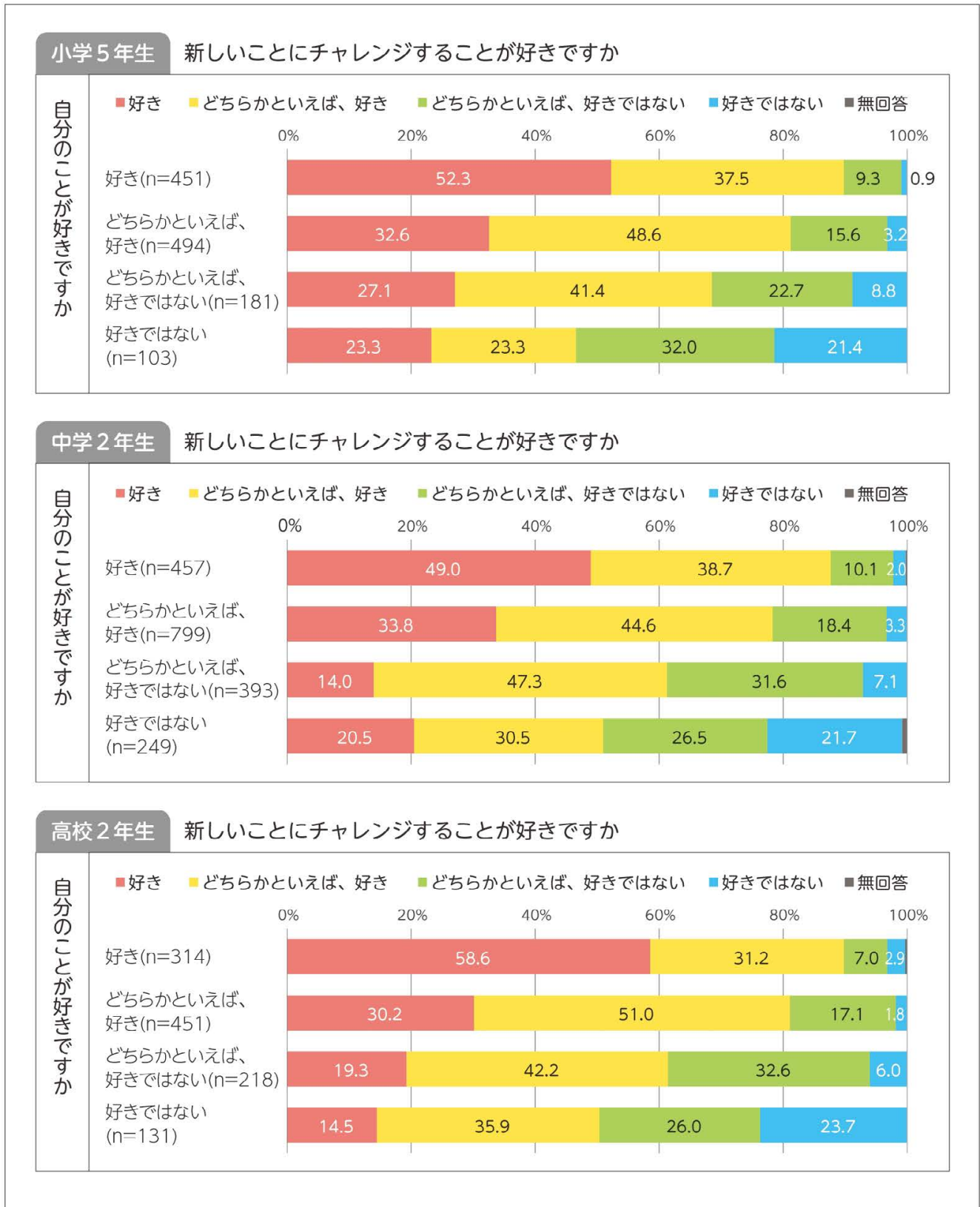
「新しいことにチャレンジすることが好き」な子どもの割合が下がっていることは課題だと思います。自分から「〇〇をやりたい」と言える子どもは少なく、「やってもいいよ」と言われないとチャレンジしにくい子どもが増えていると感じています。特にコロナ禍において、感染症対策のもとで禁止されたり、行動を制限されたりすることが多かったこともあり、指示待ちの子どもや、やってもいいか、どのようにすればよいか、大人の反応を伺う子どもが以前より多くなっていると感じます。体験の機会が大切と考え、私たちが運営する学習支援「かな塾」では、子どもたちが主体的にやりたいことや好きなことができる環境づくりをすることで、いろいろなことに挑戦できています。

(NPO 法人 玉絆)

自分のことが好きな子どもは、好きではない子どもより、新しいことにチャレンジすることが好きな割合が高い

「自分のことが好き」と「新しいことにチャレンジすること」の関係について、小学生、中学生、高校生ともに、自分のことが「好き」と答えた子どもは、「好きではない」と答えた子どもより、新しいことにチャレンジすることが「好き」または「どちらかといえば、好き」と肯定的に答えた割合が30ポイント以上高くなっています。

■図表21 「自分のことが好き」と「新しいことにチャレンジすること」の関係

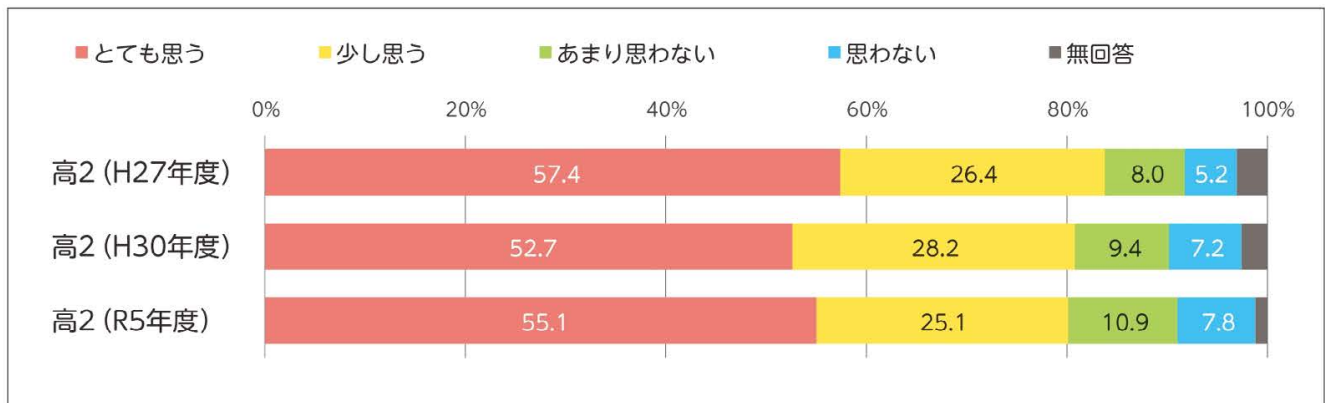


資料：「三重県子ども条例に基づく調査〈子ども調査〉」

将来、結婚したいと思う高校生は約8割

将来、結婚したいと思うかについて、「とても思う」または「少し思う」と肯定的に答えた高校生は80.2%となっています。

■図表22-1 あなたは、自分の将来について、いつかは結婚したいと思いますか

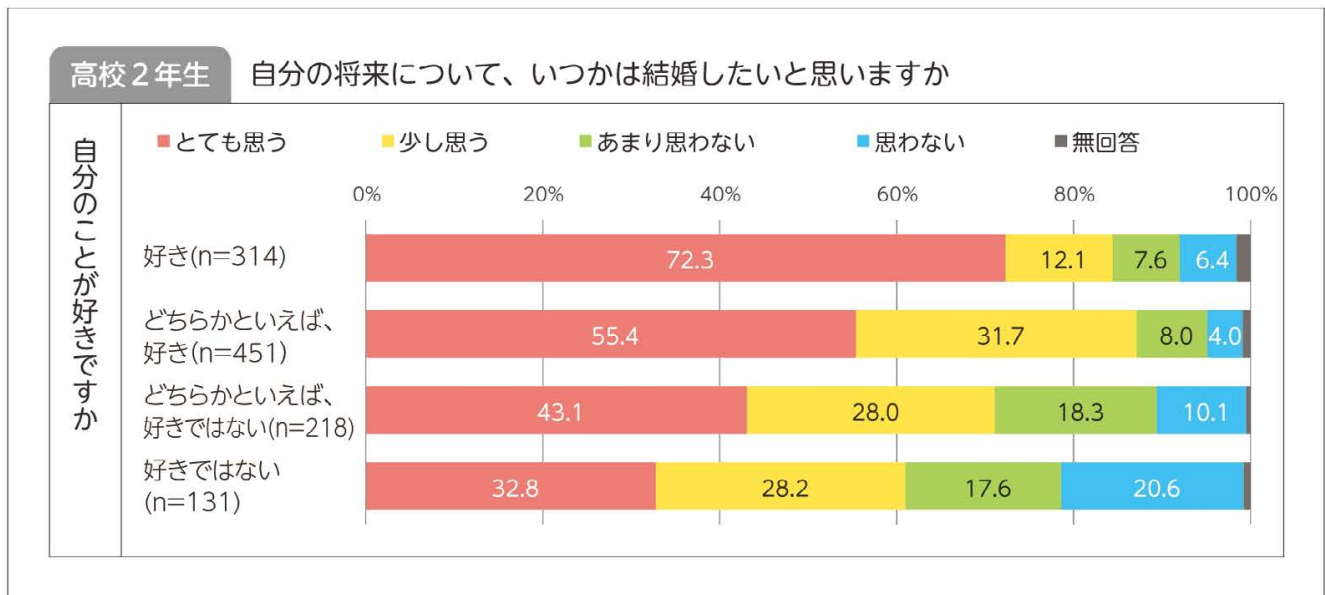


資料：「三重県子ども条例に基づく調査（子ども調査）」

自分のことが好きな高校生は、好きではない高校生より、将来結婚したいと思う割合が高い

「自分のことが好き」と「将来、結婚したいと思う」の関係について、自分のことが「好き」と答えた高校生は、「好きではない」と答えた高校生より、将来結婚したいと「とても思う」または「少し思う」と肯定的に答えた割合が23.4ポイント高くなっています。

■図表22-2 「自分のことが好き」と「将来、結婚したいと思う」の関係

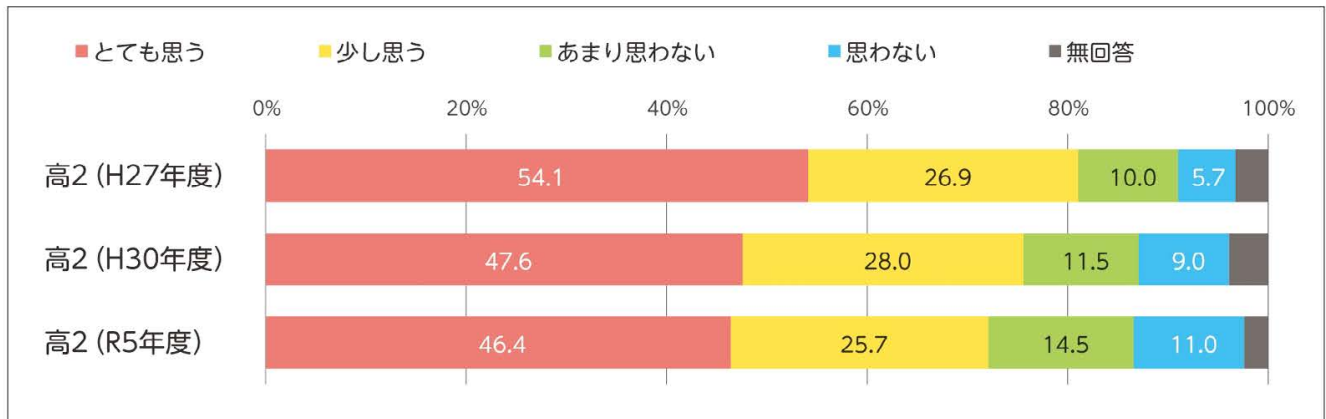


資料：「三重県子ども条例に基づく調査（子ども調査）」

将来、子どもを持ちたいと思う高校生は約7割で減少している

将来、子どもをほしいと思うかについて、「とても思う」または「少し思う」と肯定的に答えた高校生は72.1%となり、減少傾向です。一方、「思わない」または「あまり思わない」と否定的に答えた高校生は25.5%で、約4人に1人となっています。

■図表23-1 あなたは、自分の将来について、いつかは子どもがほしいと思いますか

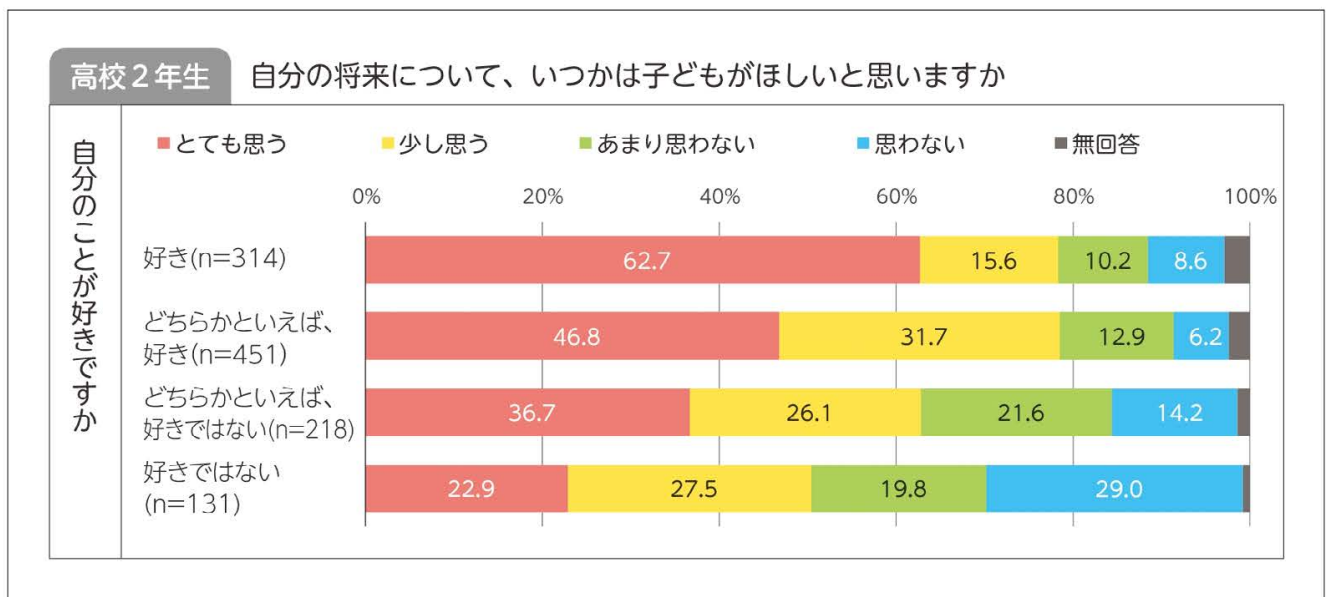


資料：「三重県子ども条例に基づく調査〈子ども調査〉」

自分のことが好きな高校生は、好きではない高校生より、将来子どもを持ちたいと思う割合が高い

「自分のことが好き」と「将来、子どもがほしいと思う」の関係について、自分のことが「好き」と答えた高校生は、「好きではない」と答えた高校生より、将来子どもがほしいと「とても思う」または「少し思う」と肯定的に答えた割合が27.9ポイント高くなっています。

■図表23-2 「自分のことが好き」と「将来、子どもがほしいと思う」の関係



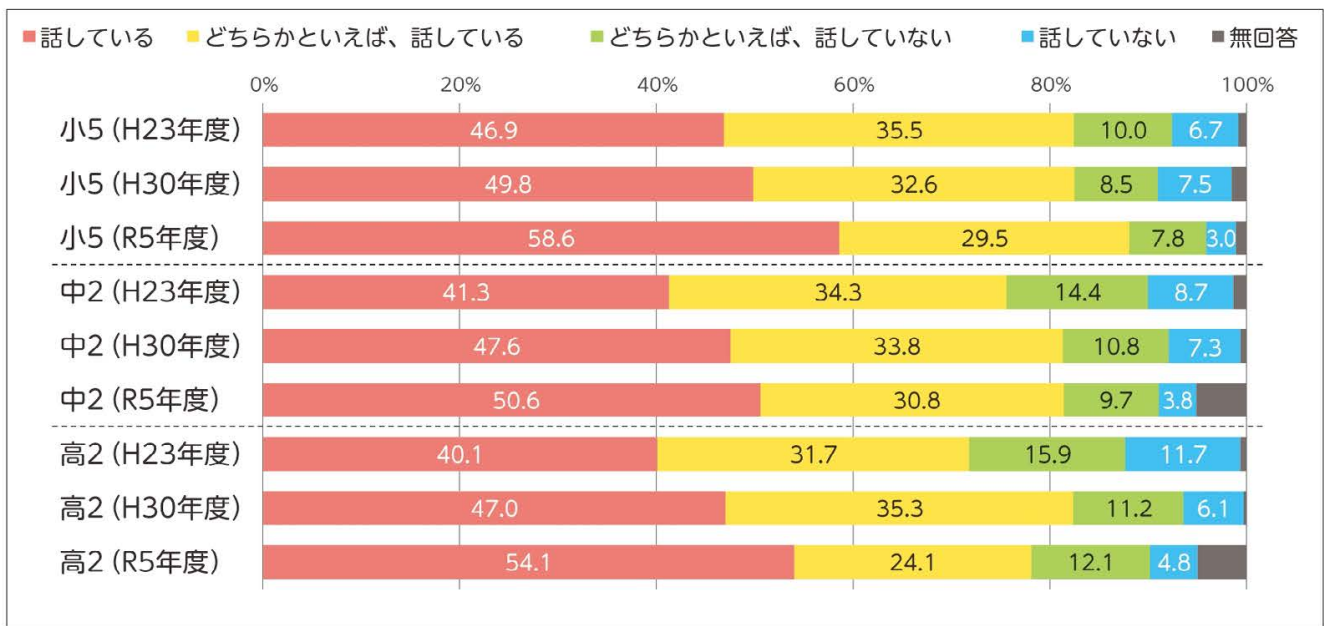
資料：「三重県子ども条例に基づく調査〈子ども調査〉」

3 大人との関わり

家の人と学校などでの出来事について話をしている小学生は約9割、中学生、高校生は約8割

家の人と学校などでの出来事について話をしているかについて、「話している」または「どちらかといえば、話している」と肯定的に答えた小学生は88.1%、中学生は81.4%、高校生は78.2%となっています。小学生、中学生、高校生ともに、「話している」の割合が増加傾向にあり、特に、小学生、高校生は平成23年度よりそれぞれ10ポイント以上高くなっています。

■ 図表24 あなたは、家の人(兄弟姉妹は含みません)と学校などでの出来事について話をしていますか

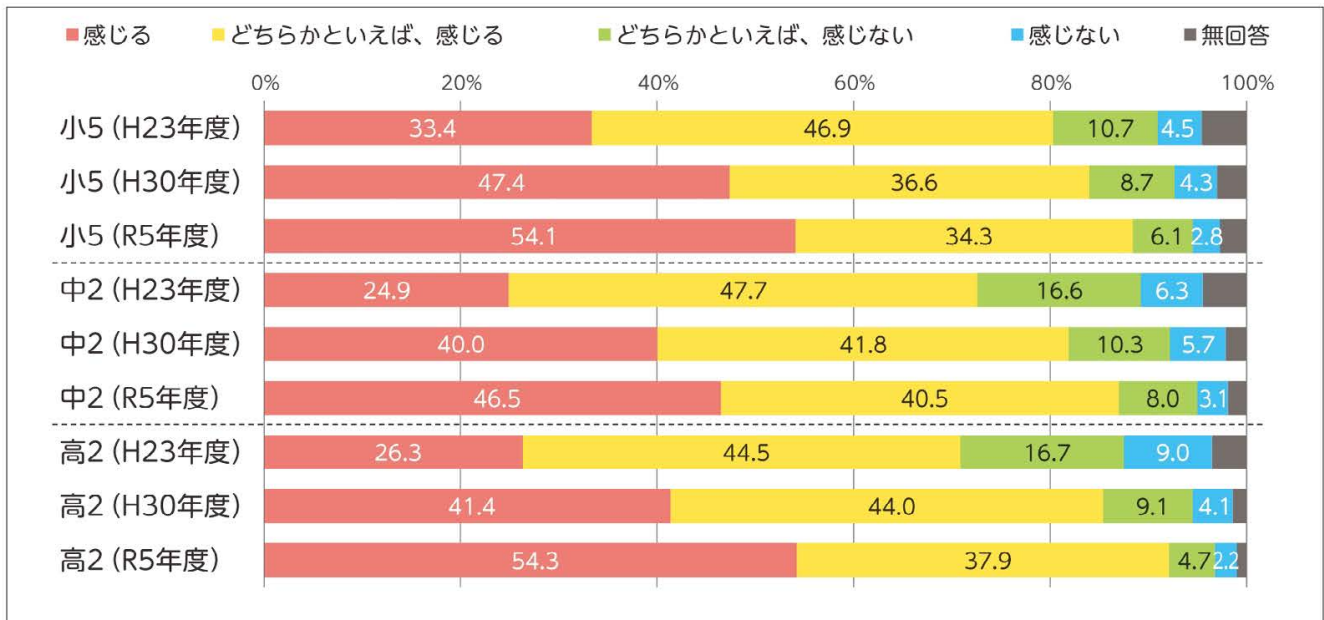


資料：「三重県子ども条例に基づく調査〈子ども調査〉」

ふだん生活している中で、大切にされていると感じる子どもは約9割で増加している

家庭や地域、学校などふだん生活している中で、「大切にされている」と感じるかについて、「感じる」または「どちらかといえば、感じる」と肯定的に答えた子どもの割合は増加傾向にあり、小学生は88.4%、中学生は87.0%、高校生は92.2%となっています。特に、小学生、中学生、高校生ともに、「感じる」の割合が増加しており、平成23年度より20ポイント以上高くなっています。

■ 図表25 あなたは、家庭や地域、学校などふだん生活している中で、「大切にされている」と感じますか

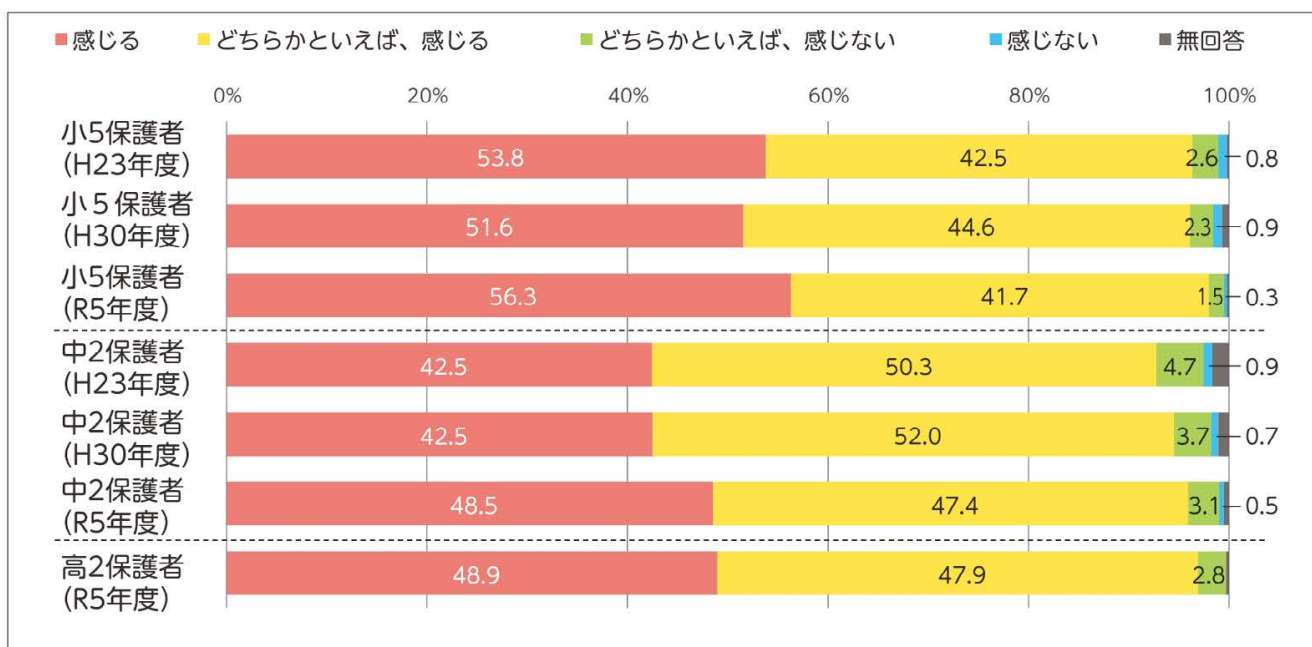


資料：「三重県子ども条例に基づく調査（子ども調査）」

ほとんどの保護者は、自分の子どもが、ふだん生活している中で大切にされていると感じている

自分の子どもが家庭や地域、学校などふだん生活している中で、「大切にされている」と感じるかについて、「感じる」または「どちらかといえば、感じる」と肯定的に答えた保護者は、小学生で98.0%、中学生で95.9%、高校生で96.8%となっています。

■ 図表26 あなたは、お子さまが、家庭や地域、学校など、ふだん生活している中で、「大切にされている」と感じますか



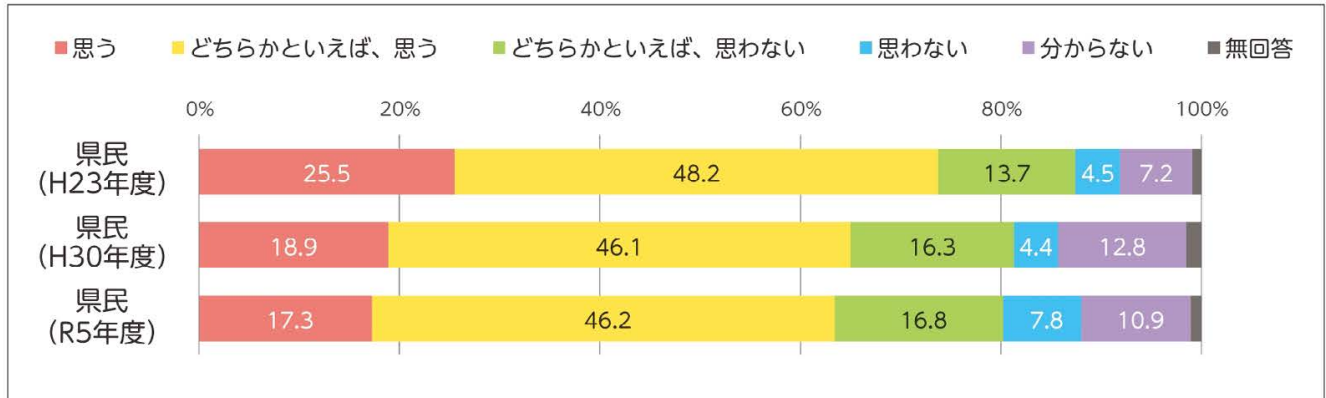
資料：「三重県子ども条例に基づく調査〈保護者調査〉」

※高校生の保護者に対する調査は、平成23年度、平成30年度は実施していません。

今の社会のなかで、子どもたちが大切にされていると思う県民は約6割で減少している

今の社会のなかで、子どもたちが大切にされていると思うかについて、「思う」または「どちらかといえば、思う」と肯定的に答えた県民は63.5%となっており、平成23年度より10.2ポイント低くなっています。

■ 図表27 あなたは、今の社会のなかで、子どもたちが大切にされていると思いますか

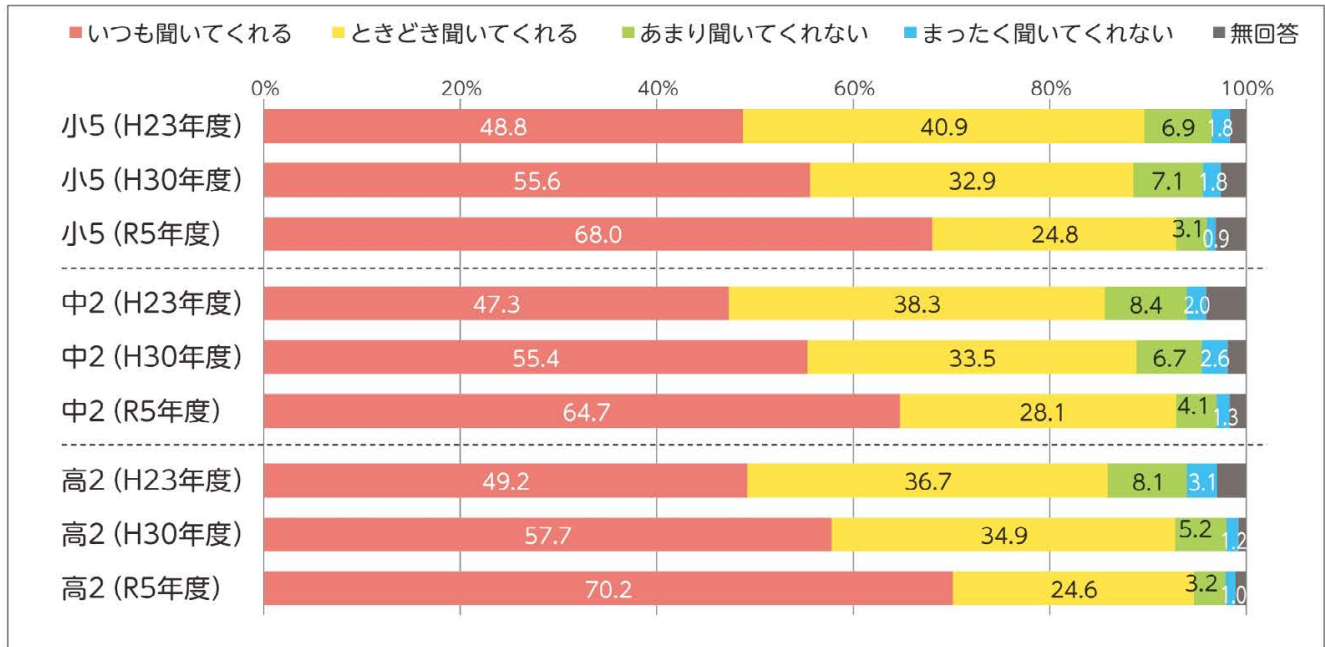


資料：「三重県子ども条例に基づく調査〈県民調査〉」

親などの大人は意見を聞いてくれると感じている子どもは9割以上で増加している

親などの大人は意見を聞いてくれるかについて、「いつも聞いてくれる」または「ときどき聞いてくれる」と肯定的に答えた小学生は92.8%、中学生は92.8%、高校生は94.8%となっています。特に、小学生、中学生、高校生ともに、「いつも聞いてくれる」の割合が増加しており、平成23年度と比較すると、小学生で19.2ポイント、中学生で17.4ポイント、高校生で21.0ポイント増加しています。

■ 図表28 あなたが自分のことを決めるとき、親(保護者)などの大人は、あなたの意見を聞いてくれますか

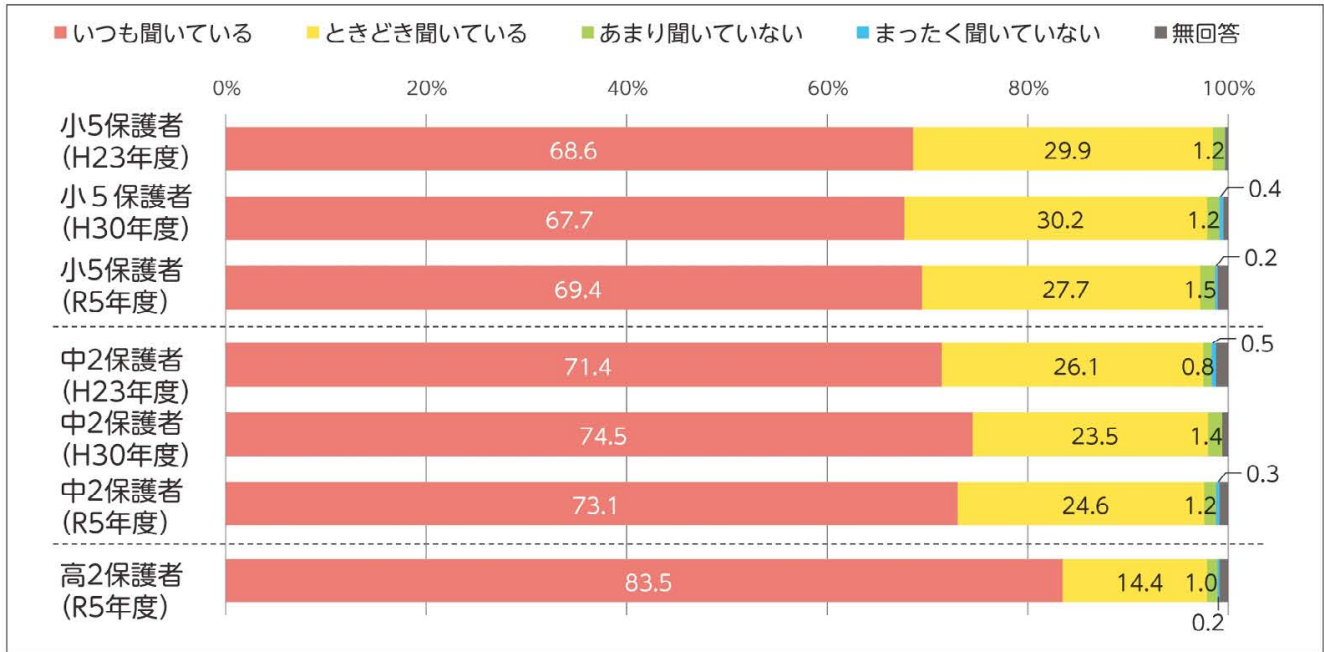


資料：「三重県子ども条例に基づく調査〈子ども調査〉」

ほとんどの保護者は、子どもの意見を聞いていると答えている

子どものことを決めるとき、子どもの意見を聞いているかについて、「いつも聞いている」または「ときどき聞いている」と肯定的に答えた保護者は、小学生で97.1%、中学生で97.7%、高校生で97.9%となっています。特に、「いつも聞いている」と答えた保護者は、小学生で69.4%、中学生で73.1%、高校生で83.5%となっており、小学生、中学生、高校生と上がるにつれて、割合が高くなっています。

■ 図表29 あなたは、お子さまのことを決めるとき、お子さまの意見を聞いていますか



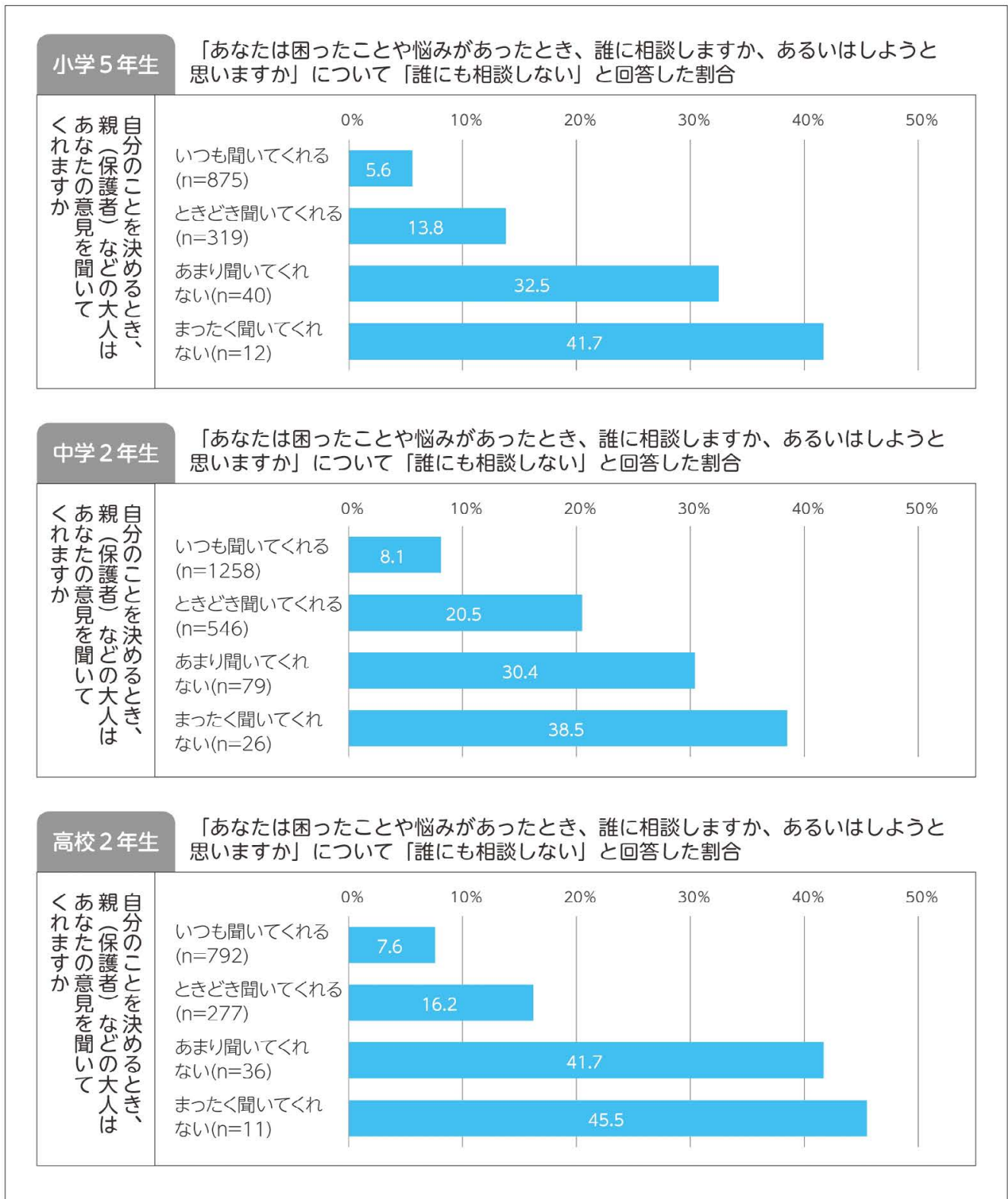
資料：「三重県子ども条例に基づく調査〈保護者調査〉」

※高校生の保護者に対する調査は、平成23年度、平成30年度は実施していません。

自分のことを決めるときに大人が意見を聞いてくれないと答えた子どもは、聞いてくれると答えた子どもより、困ったことや悩みがあったときに誰にも相談しない割合が高い

「親(保護者)などの大人が意見を聞いてくれる」と「困ったことや悩みがあったときの相談相手の有無」の関係について、小学生、中学生、高校生ともに、親(保護者)などの大人が意見を「まったく聞いてくれない」と答えた子どもは、「いつも聞いてくれる」と答えた子どもより、困ったことや悩みがあったときの相談相手の有無について「誰にも相談しない」の割合が30ポイント以上高くなっています。

■ 図表30 「親(保護者)などの大人が意見を聞いてくれる」と「困ったことや悩みがあったときの相談相手の有無」の関係

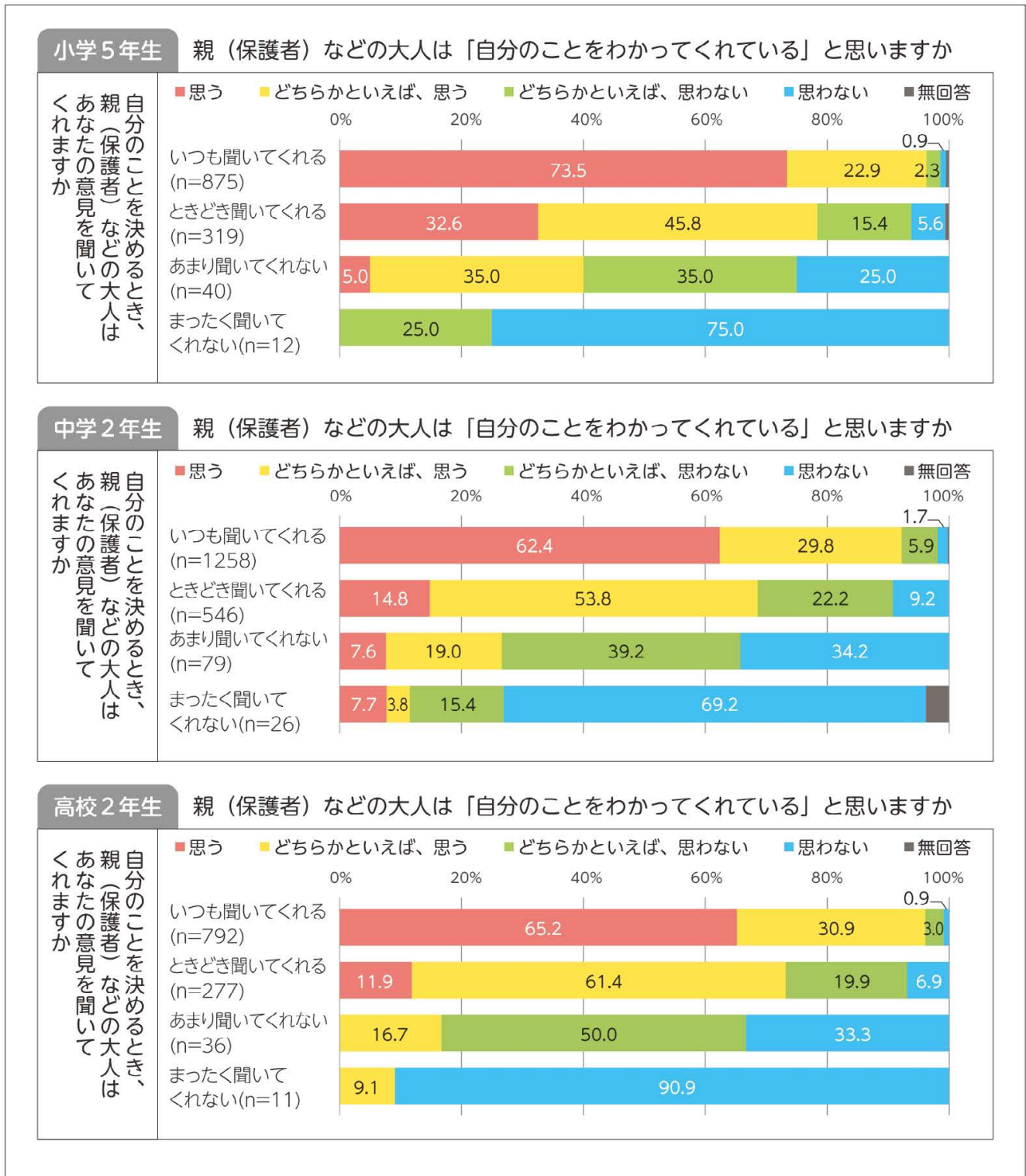


資料：「三重県子ども条例に基づく調査〈子ども調査〉」

自分のことを決めるときに大人が意見を聞いてくれると答えた子どもは、聞いてくれないと答えた子どもより、大人が自分のことをわかっていると思う割合が高い

「親（保護者）などの大人が意見を聞いてくれる」と「親（保護者）などの大人が自分のことをわかっている」との関係について、親（保護者）などの大人が意見を「いつも聞いてくれる」と答えた子どもは、親（保護者）などの大人が自分のことをわかっていると思うまたは「どちらかといえば、思う」と肯定的に答えた割合が小学生で96.4%、中学生で92.2%、高校生で96.1%となっています。また、小学生、中学生、高校生ともに、「いつも聞いてくれる」と答えた子どもは、それ以外の子どもより、親（保護者）などの大人が自分のことをわかっていると思うの割合が40ポイント以上高くなっています。

■図表31 「親(保護者)などの大人が意見を聞いてくれる」と「親(保護者)などの大人が自分のことをわかっている」の関係

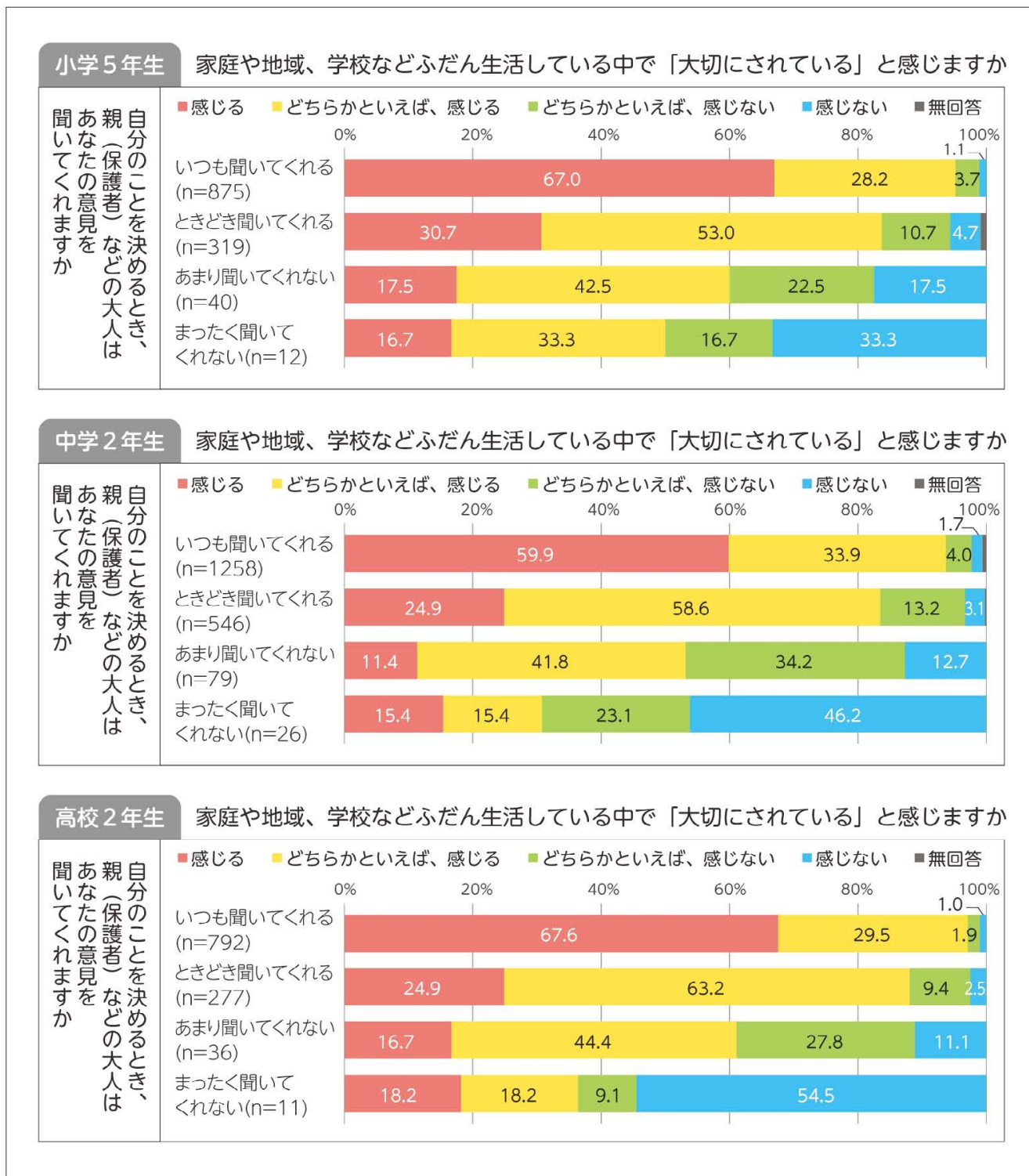


資料：「三重県子ども条例に基づく調査〈子ども調査〉」

自分のことを決めるときに大人が意見を聞いてくれると答えた子どもは、聞いてくれないと答えた子どもより、大切にされていると思う割合が高い

「親（保護者）などの大人が意見を聞いてくれる」と「ふだん生活している中で大切にされていると感じる」の関係について、親（保護者）などの大人が意見を「いつも聞いてくれる」と答えた子どもは、ふだん生活している中で大切にされていると「感じる」または「どちらかといえば、感じる」と肯定的に答えた割合が小学生で95.2%、中学生で93.8%、高校生で97.1%となっています。また、小学生、中学生、高校生ともに、「いつも聞いてくれる」と答えた子どもは、それ以外の子どもより、ふだん生活している中で大切にされていると「感じる」の割合が30ポイント以上高くなっています。

■ 図表32 「親(保護者)などの大人が意見を聞いてくれる」と「ふだん生活している中で大切にされていると感じる」の関係

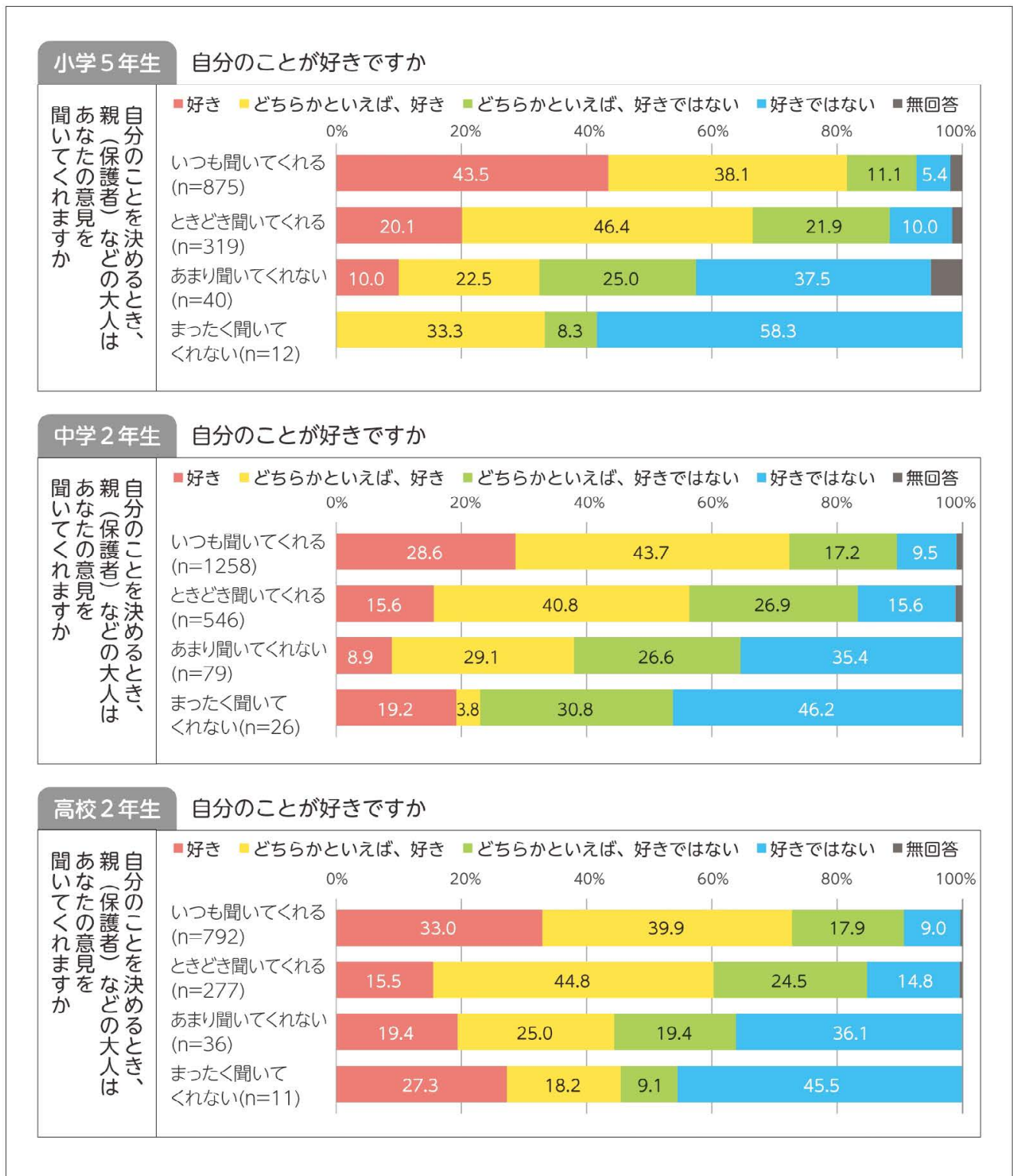


資料：「三重県子ども条例に基づく調査（子ども調査）」

自分のことを決めるときに大人が意見を聞いてくれると答えた子どもは、聞いてくれないと答えた子どもより、自分のことが好きな割合が高い

「親（保護者）などの大人が意見を聞いてくれる」と「自分のことが好き」の関係について、親（保護者）などの大人が意見を「いつも聞いてくれる」と答えた子どもは、自分のことが「好き」または「どちらかといえば、好き」と肯定的に答えた割合が、小学生で81.6%、中学生で72.3%、高校生で72.9%となっています。また、「まったく聞いてくれない」と答えた子どもは、「いつも聞いてくれる」と答えた子どもより、自分のことが「好きではない」の割合が高くなっており、その差は小学生で52.9ポイント、中学生で36.7ポイント、高校生で36.5ポイントとなっています。

■ 図表33 「親(保護者)などの大人が意見を聞いてくれる」と「自分のことが好き」の関係

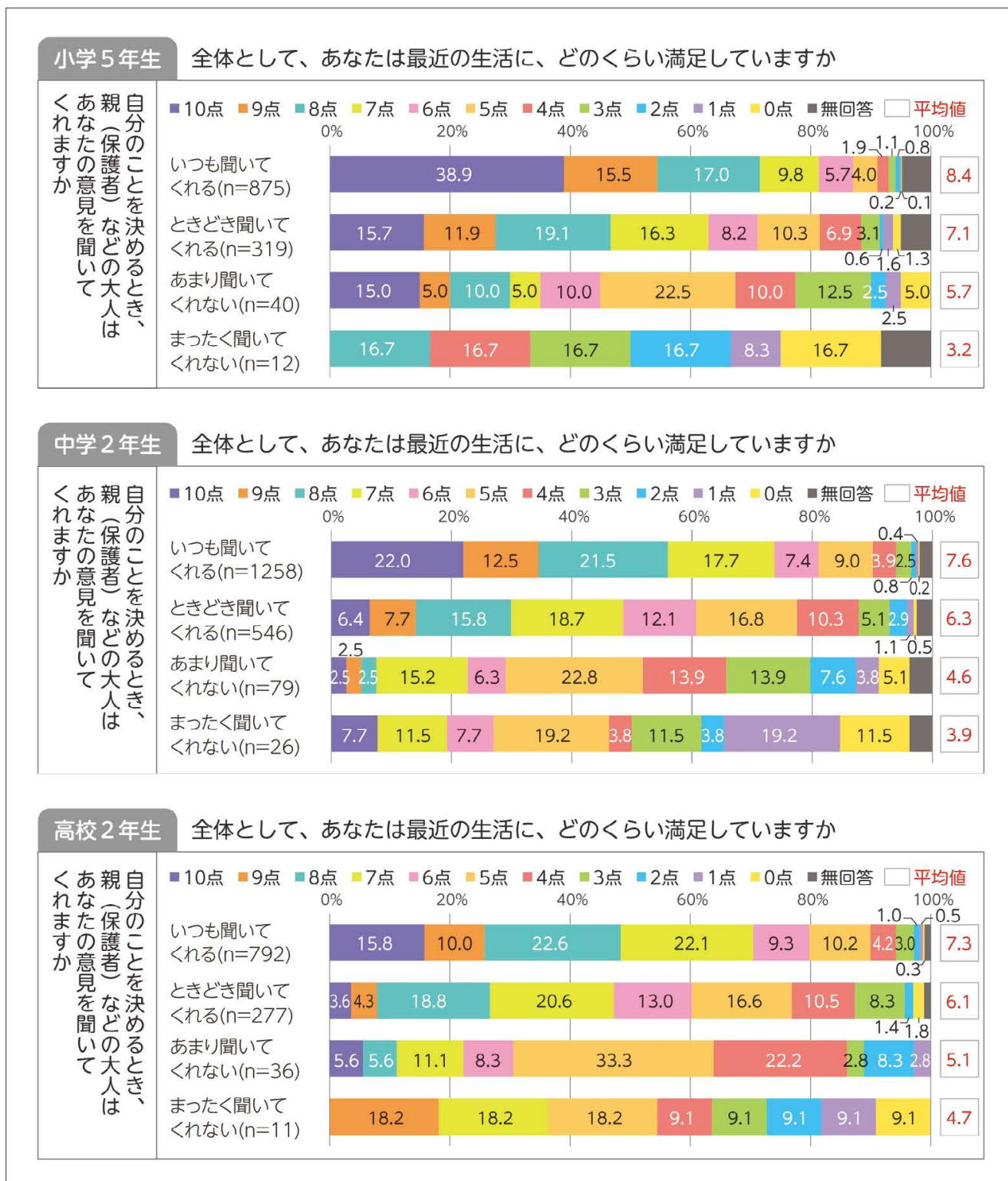


資料：「三重県子ども条例に基づく調査（子ども調査）」

自分のことを決めるときに大人が意見を聞いてくれると答えた子どもは、聞いてくれないと答えた子どもより、最近の生活満足度が高い

「親（保護者）などの大人が意見を聞いてくれる」と「最近の生活満足度」の関係について、小学生、中学生、高校生ともに、親（保護者）などの大人が意見を「いつも聞いてくれる」と答えた子どもは、「まったく聞いてくれない」と答えた子どもより、最近の生活満足度の平均値が高くなっています。また、小学生では「いつも聞いてくれる」と答えた子どもの最近の生活満足度の平均値は 8.4 点、「まったく聞いてくれない」と答えた子どもの最近の生活満足度の平均値は 3.2 点で、その差は 5.2 点となっており、中学生、高校生より差が大きくなっています。

■ 図表34 「親(保護者)などの大人が意見を聞いてくれる」と「最近の生活満足度」の関係



資料：「三重県子ども条例に基づく調査〈子ども調査〉」

※ □ で囲んだ数字は、最近の生活満足度の平均値を表しています。

自分で決めたり、自分の意見を聞き入れてほしいと思うことは、小学生は「テレビ、ゲーム」、中学生は「服そう」、高校生は「進学したい学校」の割合が最も高い

自分で決めたり、自分の意見を聞き入れてほしいと思うことについて、小学生は「テレビ、ゲーム」の割合が39.3%で最も高く、次いで「服そう」(36.2%)、「習い事」(34.4%)となっています。中学生は「服そう」の割合が50.1%で最も高く、次いで「テレビ、ゲーム」(47.2%)、「趣味の活動」(46.7%)となっています。高校生は「進学したい学校」の割合が59.0%で最も高く、次いで「服そう」(57.1%)、「付き合い友だち」(52.9%)となっています。また、「自分で決めたいと思うことはない」と答えた小学生は13.9%、中学生は7.1%、高校生は5.3%となっており、いずれも増加傾向です。

■ 図表35 あなたは、どのようなことについて自分で決めたり、自分の意見を聞き入れてほしいと思いますか(複数回答)

	小学5年生			中学2年生			高校2年生		
	H23年度	H30年度	R5年度	H23年度	H30年度	R5年度	H23年度	H30年度	R5年度
服そう	32.9	① 44.1	② 36.2	① 45.8	② 49.3	① 50.1	② 47.1	① 52.0	② 57.1
習い事	② 37.3	① 44.1	③ 34.4	18.8	30.5	28.6	11.3	19.9	21.9
学習塾 ※1	13.6	14.2	13.0	16.5	20.5	19.4	8.8	15.6	18.7
家に帰る時間	18.8	25.5	17.7	25.4	31.3	31.9	33.2	37.3	41.0
テレビ、ゲーム	① 38.8	③ 42.0	① 39.3	34.0	① 49.9	② 47.2	28.8	40.5	39.5
寝る時間	③ 35.6	32.5	26.5	③ 38.2	③ 46.7	42.2	38.8	44.6	44.1
進学したい学校	19.2	26.3	18.3	36.1	42.0	45.2	36.1	② 50.9	① 59.0
クラブ活動(部活動) ※2	20.4	24.2	13.6	37.2	42.1	36.1	26.9	39.2	37.9
アルバイト	11.8	11.4	12.8	16.7	18.3	25.5	26.4	28.9	33.2
就職先	19.6	18.1	13.5	22.6	24.6	29.2	28.1	36.2	38.7
付き合い友だち	30.7	29.5	22.3	② 42.0	44.3	43.5	① 50.2	47.3	③ 52.9
携帯電話・スマートフォン ※3	27.7	33.4	25.7	30.7	40.9	46.2	25.6	35.3	43.0
趣味の活動	22.5	26.9	22.7	30.7	42.0	③ 46.7	③ 40.3	③ 48.3	49.9
学校の決まり	10.6	10.4	8.1	10.5	10.8	15.6	12.8	12.5	16.2
祭りなどの地域の行事	11.9	19.5	16.0	8.7	21.9	19.2	7.7	15.5	14.9
地域の児童館や公園などの施設の使い方 ※4	2.8	—	—	2.0	—	—	2.4	—	—
子どもにかかわる社会の決まり(ルールなど) ※5	3.7	7.6	4.8	2.7	6.9	9.1	3.8	7.9	10.1
その他	3.2	2.3	2.2	1.3	1.8	1.2	2.8	1.6	0.4
自分で決めたいと思うことはない	5.0	6.2	13.9	4.3	5.2	7.1	2.7	4.8	5.3
無回答	3.7	3.1	5.1	4.7	2.2	3.6	5.9	1.8	2.3

資料：「三重県子ども条例に基づく調査〈子ども調査〉」

※○で囲んだ数字は、上位3項目の順位を表しています。

※1 平成23年度、平成30年度は「塾」

※2 平成23年度、平成30年度は「部活動」

※3 平成23年度、平成30年度は「携帯電話・スマートフォンを持つこと」

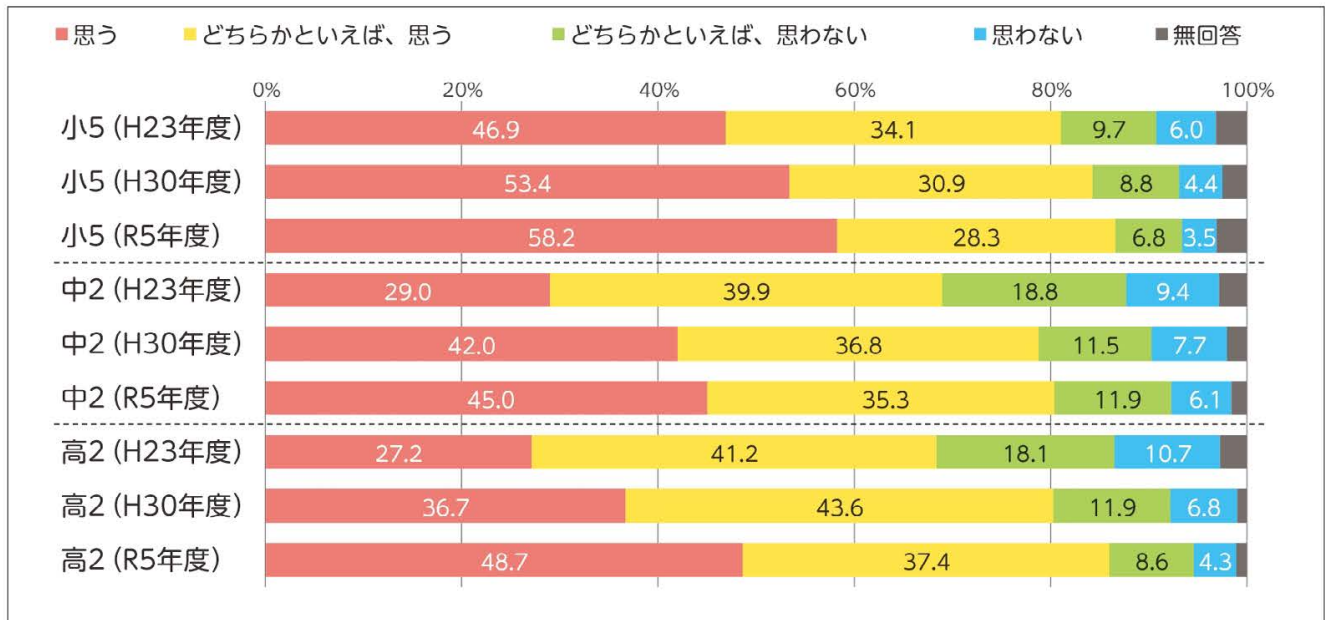
※4 平成30年度、令和5年度にこの選択肢はありません。

※5 平成23年度は「子どもにかかわる社会の決まりなどの重要なこと」

親などの大人が自分のことをわかってくれていると思う子どもは8割以上で増加している

親などの大人が自分のことをわかってくれていると思うかについて、「思う」または「どちらかといえば、思う」と肯定的に答えた小学生は86.5%、中学生は80.3%、高校生は86.1%となっており、いずれも増加傾向です。小学生、中学生、高校生ともに、「思う」の割合が増加しており、平成23年度と比較すると、小学生で11.3ポイント、中学生で16.0ポイント、高校生で21.5ポイント増加しています。

■図表36 あなたは、親(保護者)などの大人は、「自分のことをわかってくれている」と思いますか

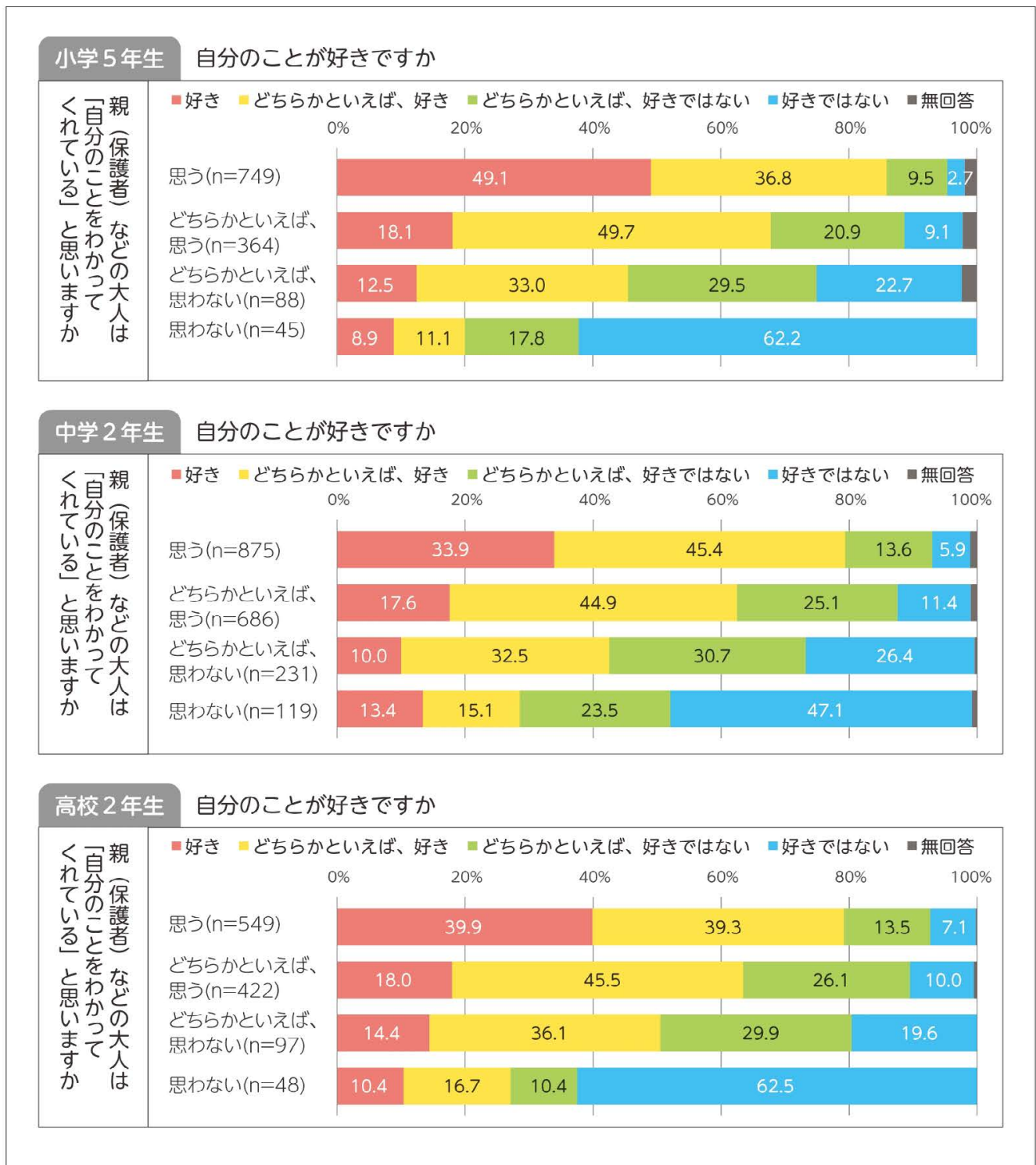


資料：「三重県子ども条例に基づく調査（子ども調査）」

親などの大人が自分のことをわかってくれていると思う子どもは、思わない子どもより、自分のことが好きな割合が高い

「親（保護者）などの大人は自分のことをわかってくれていると思う」と「自分のことが好き」の関係について、小学生、中学生、高校生ともに、親などの大人は自分のことをわかってくれていると「思う」と答えた子どもは、「思わない」と答えた子どもより、自分のことが「好き」または「どちらかといえば、好き」と肯定的に答えた割合が高くなっており、その差は小学生で65.9ポイント、中学生で50.8ポイント、高校生で52.1ポイントとなっています。また、親などの大人は自分のことをわかってくれていると「思わない」と答えた小学生、高校生は、自分のことが「好きではない」と答えた割合が6割を超えています。

■ 図表37 「親（保護者）などの大人は自分のことをわかってくれていると思う」と「自分のことが好き」の関係

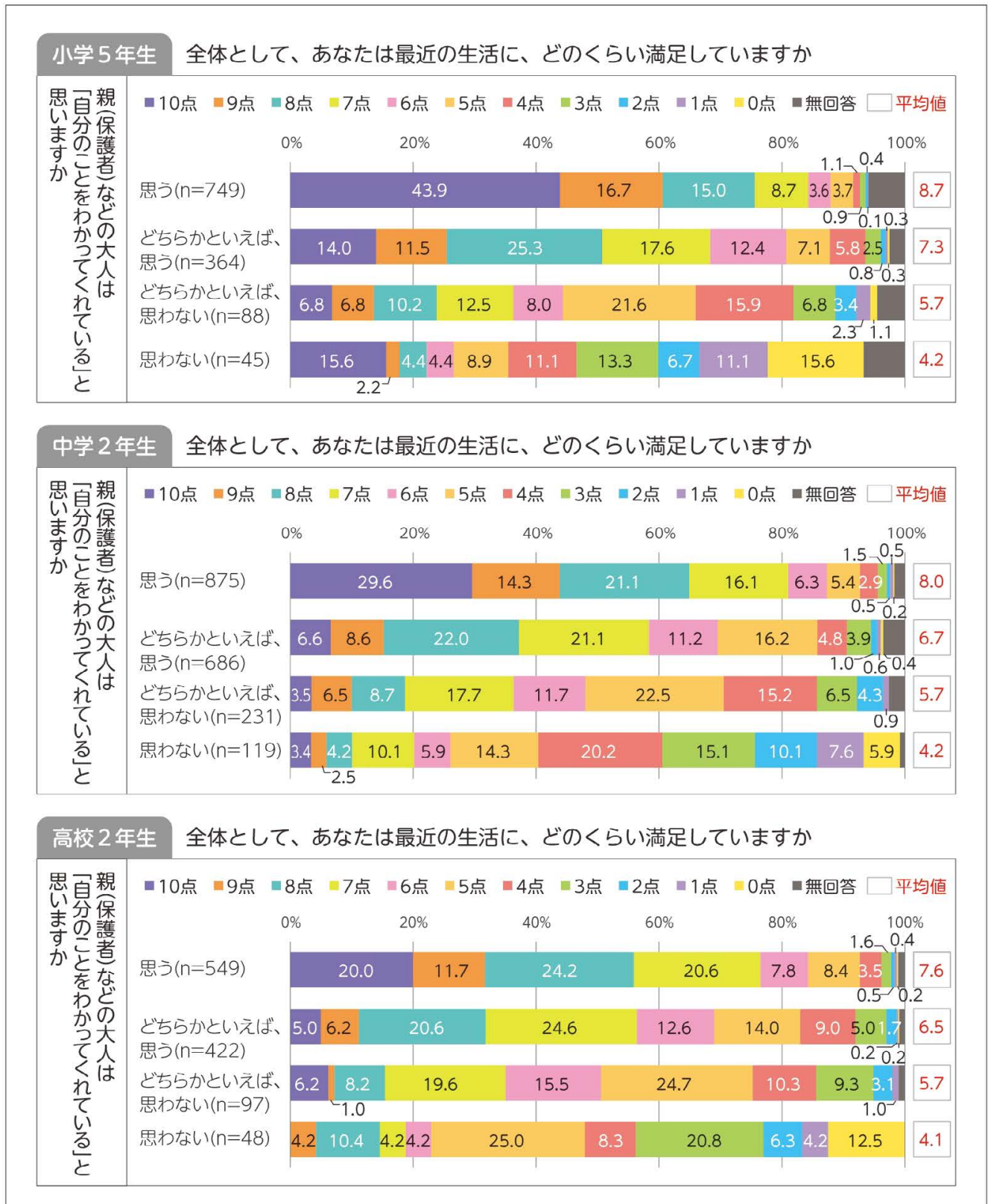


資料：「三重県子ども条例に基づく調査（子ども調査）」

親などの大人が自分のことをわかってくれていると思う子どもは、思わない子どもより、最近の生活満足度が高い

「親（保護者）などの大人は自分のことをわかってくれていると思う」と「最近の生活満足度」の関係について、小学生、中学生、高校生ともに、親などの大人は自分のことをわかってくれていると「思う」と答えた子どもは、「思わない」と答えた子どもより、最近の生活満足度の平均値が高くなっています。

■ 図表38 「親（保護者）などの大人は自分のことをわかってくれていると思う」と「最近の生活満足度」の関係



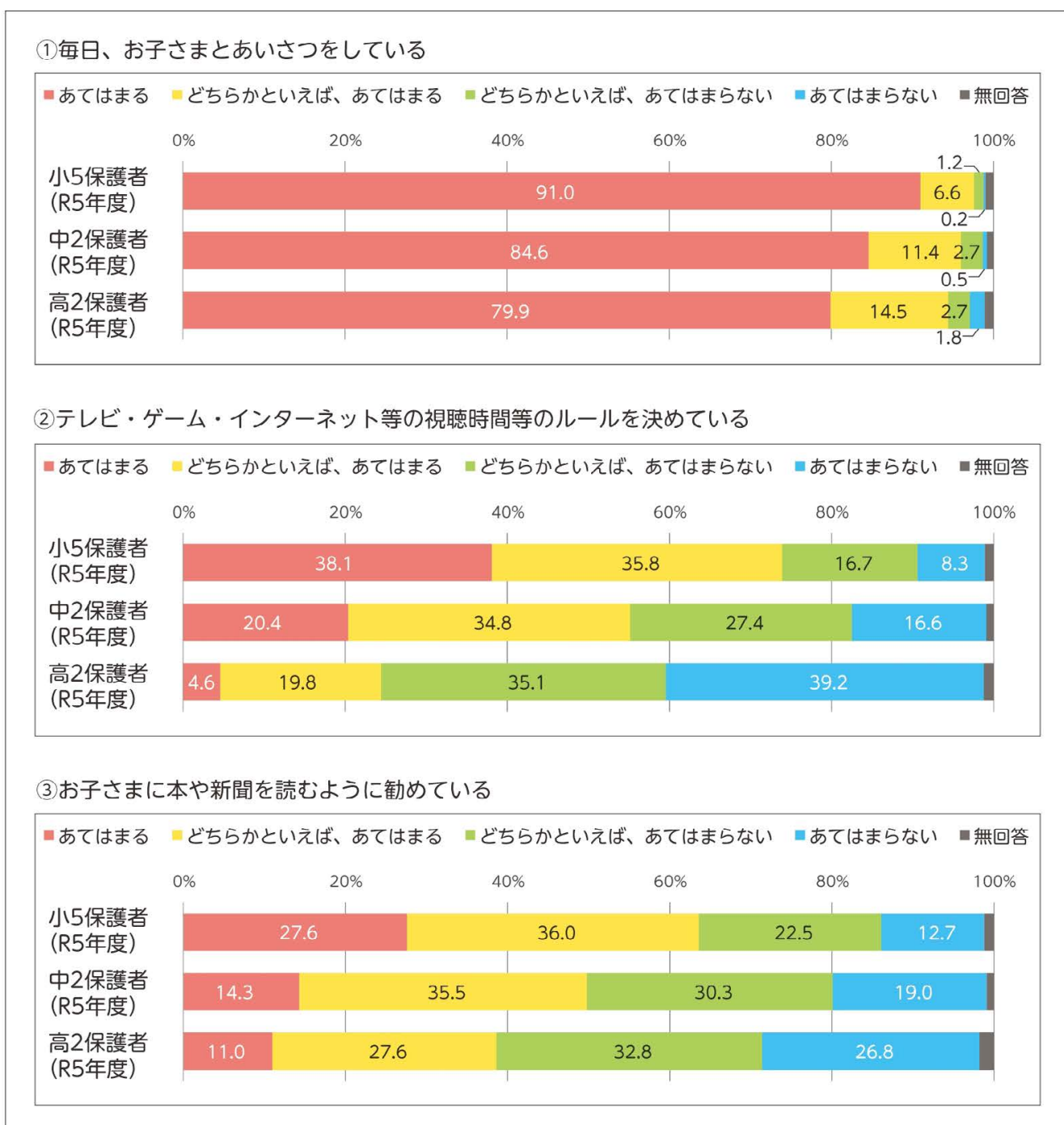
資料：「三重県子ども条例に基づく調査〈子ども調査〉」
 ※ □ で囲んだ数字は、最近の生活満足度の平均値を表しています。

「テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている」、「お子さまに本や新聞を読むように勧めている」と答えた保護者の割合は、小学生、中学生、高校生と上がるにつれて低下

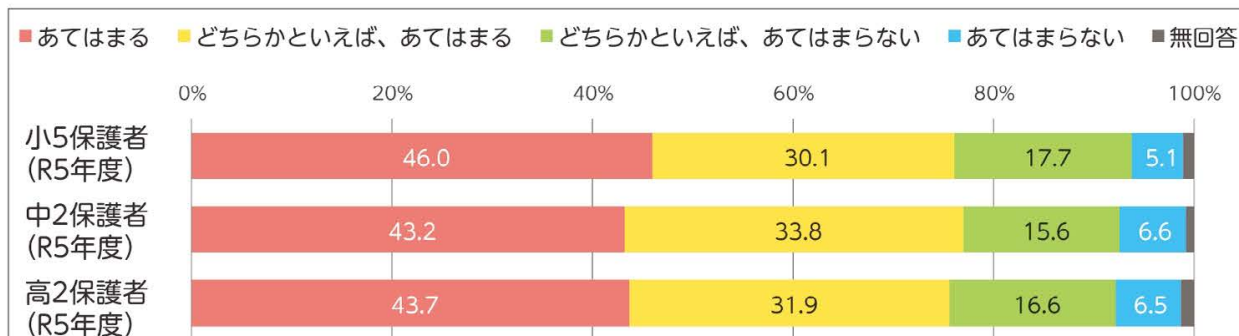
子どもとの関わり方について、「①毎日、お子さまとあいさつをしている」、「②テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている」、「③お子さまに本や新聞を読むように勧めている」に、「あてはまる」または「どちらかといえば、あてはまる」と肯定的に答えた保護者の割合は、小学生、中学生、高校生と上がるにつれて低くなっています。特に「②テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている」については小学生の保護者と高校生の保護者で49.5ポイント、「③お子さまに本や新聞を読むように勧めている」については25.0ポイントの差となっています。

「④お子さまが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた」については、小学生、中学生、高校生の保護者でほとんど差はみられません。また、「⑤お子さまから勉強や成績のことについて話をしてくれる」については、中学生の保護者で肯定的に答えた割合がやや低くなっています。

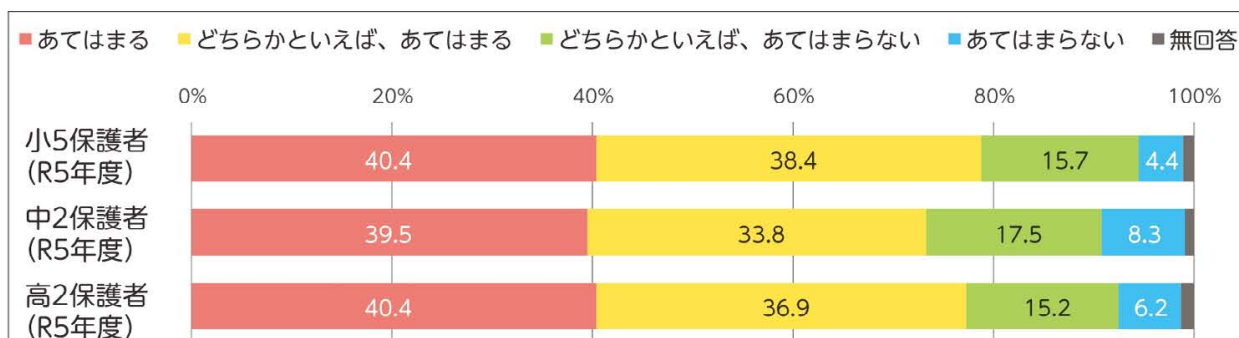
■図表39 あなたとお子さまとの関わり方について、次のようなことにどれくらいあてはまりますか



④お子さまが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた



⑤お子さまから勉強や成績のことについて話をしてくれる



資料：「三重県子ども条例に基づく調査〈保護者調査〉」

子どもを支援する取組を行っている NPO の方にお聞きしました。

●子どもとの関わり方について

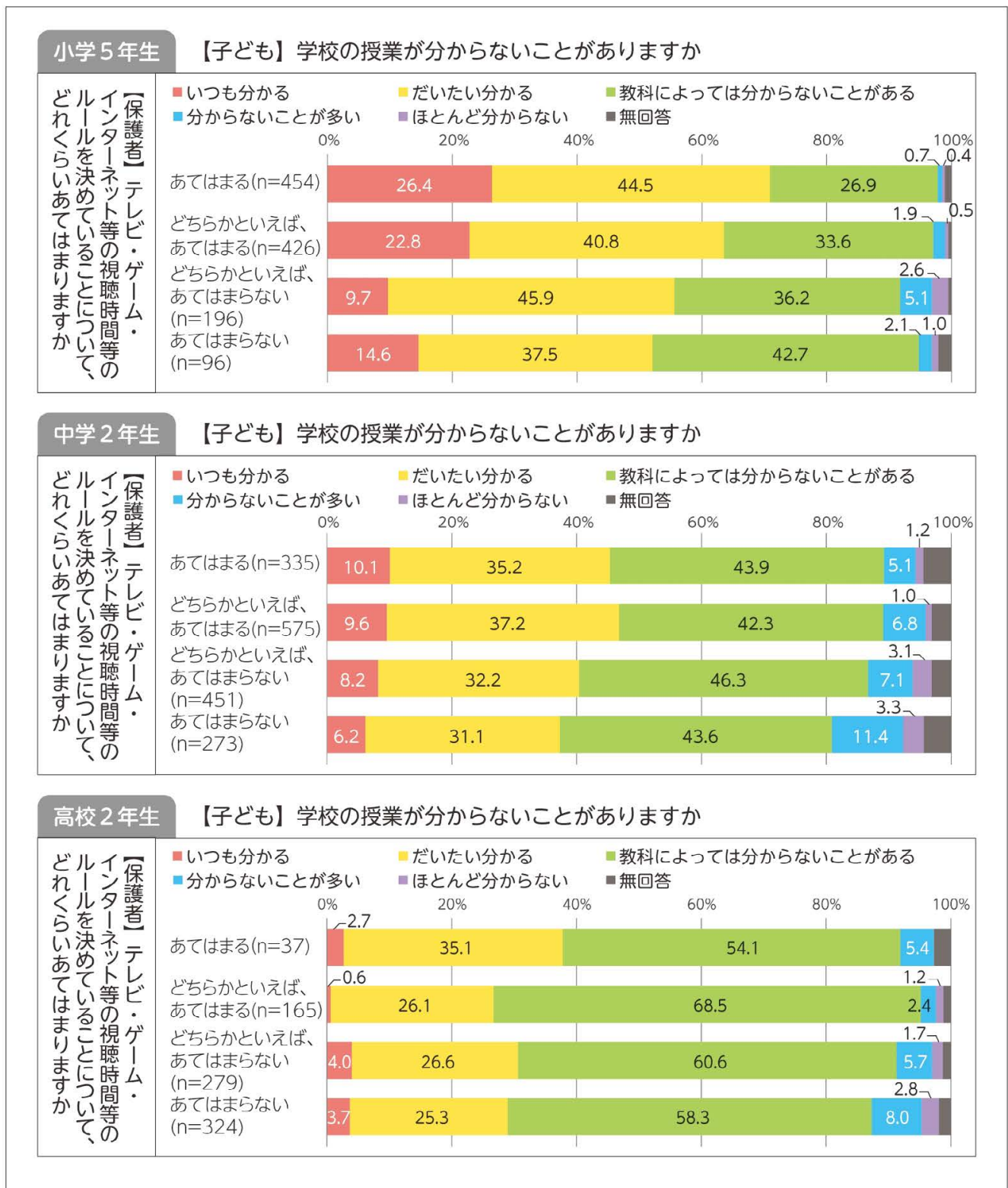
子どもは元々、意欲的で、いろいろなことに興味を持っていますが、最初からさまざまなことを教えられ過ぎて子どもが多いように感じます。大人の言うことに従っているだけでは主体性（自分の意志で責任を持って行動すること）を高めることはできません。大人が子どもに「〇〇しなさい」と言うのではなく、「どう思う？」「どうしたい？」と問いかけることで、子どもの主体性が高まり、意欲も高まります。意欲がある子どもは、頭の中にいろいろな疑問が浮かんできて、学びの意欲にもつながっていきます。

(NPO 法人 三重県子ども NPO サポートセンター)

テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている家庭の子どもは、学校の授業が分かる割合が高い

「テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている」と「子どもが学校の授業が分からないことがある」の関係について、テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めていることに「あてはまる」と答えた家庭の子どもは、「あてはまらない」と答えた家庭の子どもより、学校の授業が「いつも分かる」または「だいたい分かる」と答えた割合が高くなっており、その差は小学生で18.8ポイント、中学生で8.0ポイント、高校生で8.8ポイントとなっています。

■図表40-1 「テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている」と「子どもが学校の授業が分からないことがある」の関係

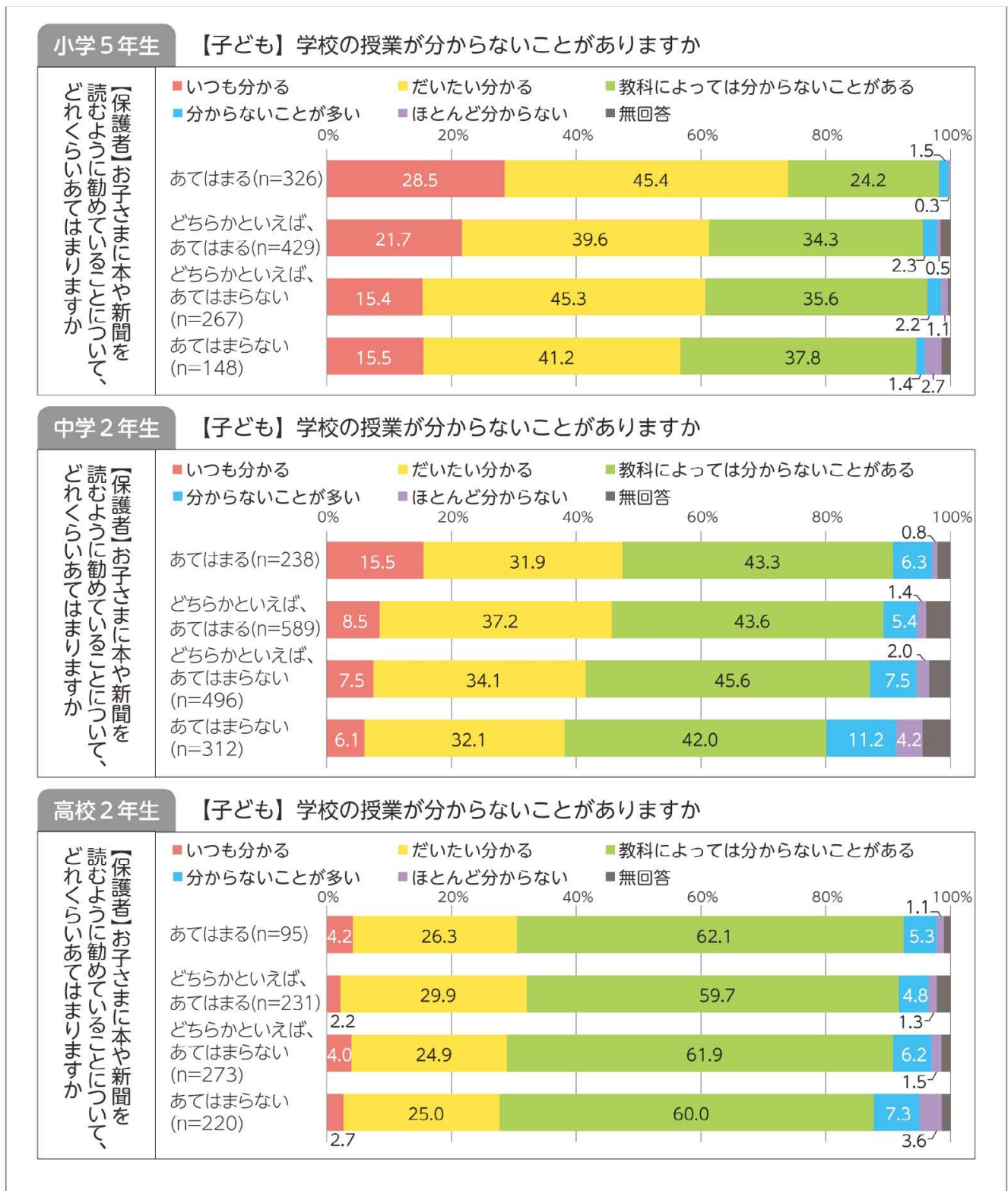


資料：「三重県子ども条例に基づく調査（子ども調査・保護者調査）」

保護者が子どもに本や新聞を読むように勧めている家庭の子どもは、学校の授業が分かる割合が高い

「保護者が子どもに本や新聞を読むように勧めている」と「子どもが学校の授業が分からないことがある」の関係について、保護者が子どもに本や新聞を読むように勧めていることに「あてはまる」と答えた家庭の子どもは「あてはまらない」と答えた家庭の子どもより、学校の授業が「いつも分かる」または「だいたい分かる」と答えた割合が高くなっており、その差は小学生で17.2ポイント、中学生で9.2ポイント、高校生で2.8ポイントとなっています。

■ 図表40-2 「保護者が子どもに本や新聞を読むように勧めている」と「子どもが学校の授業が分からないことがある」の関係

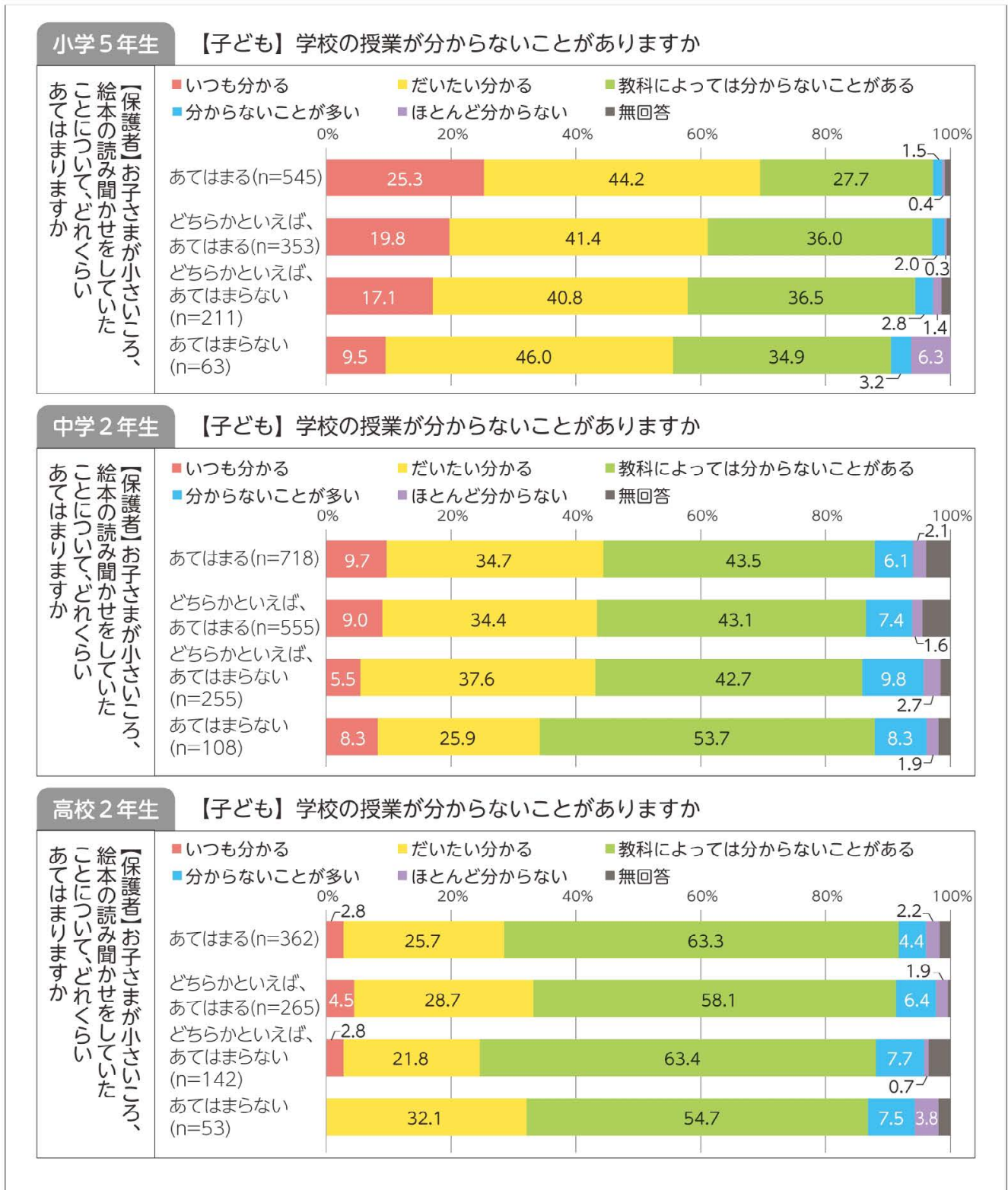


資料：「三重県子ども条例に基づく調査（子ども調査・保護者調査）」

子どもが小さいころ、保護者が絵本の読み聞かせをしていた家庭の小学生、中学生は、学校の授業が分かる割合が高い

「子どもが小さいころ、保護者が絵本の読み聞かせをしていた」と「子どもが学校の授業が分からないことがある」の関係について、小学生、中学生では、絵本の読み聞かせをしていたことに「あてはまる」と答えた家庭の子どもは、「あてはまらない」と答えた家庭の子どもより、学校の授業が「いつも分かる」または「だいたい分かる」と答えた割合が高くなっており、その差は小学生で14.0ポイント、中学生で10.2ポイントとなっています。

■図表40-3 「子どもが小さいころ、保護者が絵本の読み聞かせをしていた」と「子どもが学校の授業が分からないことがある」の関係



資料：「三重県子ども条例に基づく調査（子ども調査・保護者調査）」

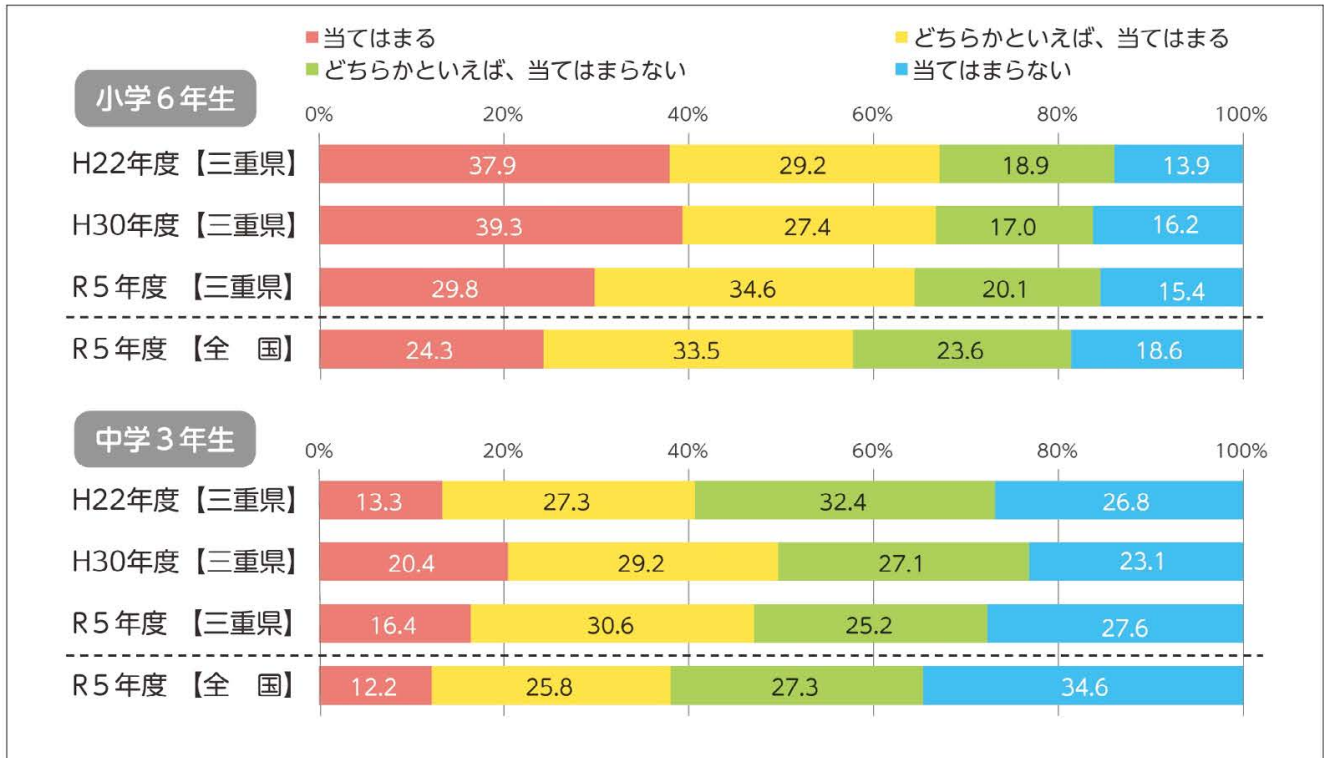
4 地域との関わり

今住んでいる地域の行事に参加している小学生は約6割、中学生は約5割

今住んでいる地域の行事に参加しているかについて、「参加している」または「どちらかといえば、参加している」と肯定的に答えた小学生は64.4%、中学生は47.0%となり、平成30年度より、やや低くなっています。特に、「参加している」と答えた小学生は、9.5ポイント低くなっています。

※わかりやすくするため、調査上の選択肢とは異なる表現で説明文を記載しています。

■図表41 今住んでいる地域の行事に参加していますか



資料：文部科学省「全国学力・学習状況調査」

住んでいる地域で取り組んでみたいことについて、小学生、中学生、高校生ともに、「特にしたいことはない」が約4割で最も高い

住んでいる地域でどんなことに取り組んでみたいと思うかについて、小学生、中学生、高校生ともに、「特にしたいことはない」がそれぞれ36.3%、42.6%、38.2%と最も高くなっています。次いで、小学生は「異なる年齢の子どもと一緒に遊んだり、活動したりする」(22.2%)、「農業、漁業、伝統工芸など、地域の産業を体験する」(17.5%)、中学生は「異なる年齢の子どもと一緒に遊んだり、活動したりする」(21.2%)、「地域のスポーツクラブやサークルで活動する」(16.2%)、高校生は「異なる年齢の子どもと一緒に遊んだり、活動したりする」(23.1%)、「地域のスポーツクラブやサークルで活動する」(18.7%)となっています。

小学生は、平成30年度と比較すると、「農業、漁業、伝統工芸など、地域の産業を体験する」、「地域のスポーツクラブやサークルで活動する」、「お年寄りや昔遊びなどで交流する」、「異なる年齢の子どもと一緒に遊んだり、活動したりする」、「いろいろな国の人と交流する」の割合がそれぞれ10ポイント以上低くなっている一方、「特にしたいことはない」の割合が15.5ポイント高くなっています。

■ 図表42 あなたは、住んでいる地域で、どんなことに取り組んでみたいと思いますか(複数回答)

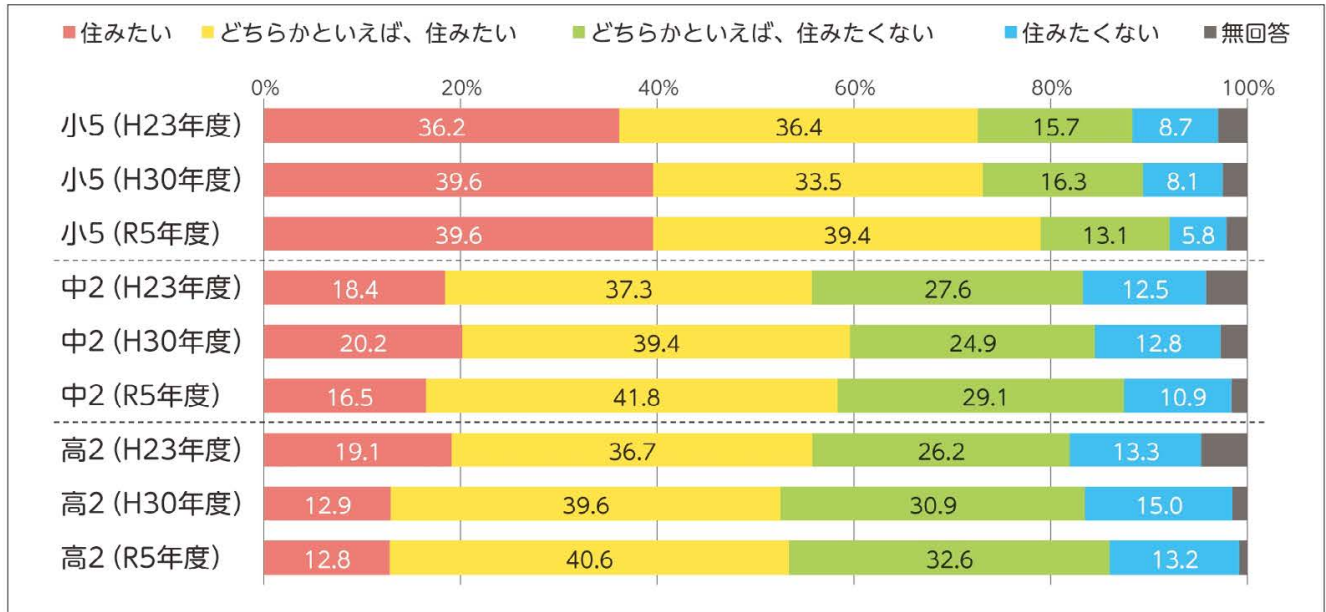
	小学5年生			中学2年生			高校2年生		
	H23年度	H30年度	R5年度	H23年度	H30年度	R5年度	H23年度	H30年度	R5年度
地域の歴史や文化について勉強する	16.0	③ 25.8	16.9	12.3	14.8	13.7	8.2	9.2	12.5
農業、漁業、伝統工芸など、地域の産業を体験する	② 24.0	② 29.4	③ 17.5	11.6	16.5	13.7	7.1	9.2	12.9
地域の大人と意見交換などをする	4.9	6.7	4.2	3.1	6.1	4.9	4.8	5.3	6.7
地域の行事を計画する	14.1	20.1	12.8	7.6	18.0	13.3	7.3	11.0	14.9
地域のスポーツクラブやサークルで活動する	21.3	③ 25.8	13.9	② 16.5	③ 22.2	③ 16.2	② 19.1	② 21.6	③ 18.7
お年寄りや昔遊びなどで交流する	22.4	22.9	12.0	6.0	10.6	8.3	7.5	6.2	6.6
異なる年齢の子どもと一緒に遊んだり、活動したりする	① 30.3	① 36.7	② 22.2	③ 15.3	② 26.5	② 21.2	③ 15.0	③ 18.7	② 23.1
町の美化活動をする	9.4	19.4	15.9	9.2	14.9	13.6	10.4	14.5	15.2
防災活動など地域の安全を守るための活動をする	14.4	20.0	13.5	6.3	12.3	9.0	4.7	8.9	9.9
いろいろな国の人と交流する	18.2	24.4	13.8	8.8	17.3	10.7	9.4	11.3	14.5
その他	1.3	3.4	1.2	1.2	1.3	0.8	1.1	1.4	0.8
特にしたいことはない	③ 23.2	20.8	① 36.3	① 43.0	① 37.2	① 42.6	① 41.7	① 39.8	① 38.2
無回答	6.7	2.3	3.4	8.2	3.0	3.3	9.1	2.8	1.8

資料：「三重県子ども条例に基づく調査（子ども調査）」

将来、自分が育った地域で住みたいと思う小学生は約8割、中学生は約6割、高校生は約5割

将来、自分が育った地域で住みたいと思うかについて、「住みたい」または「どちらかといえば、住みたい」と肯定的に答えた小学生は79.0%、中学生は58.3%、高校生は53.4%となっています。小学生は平成30年度より5.9ポイント高くなっています。

■ 図表43 あなたは、将来、自分が育った地域で住みたいと思いますか

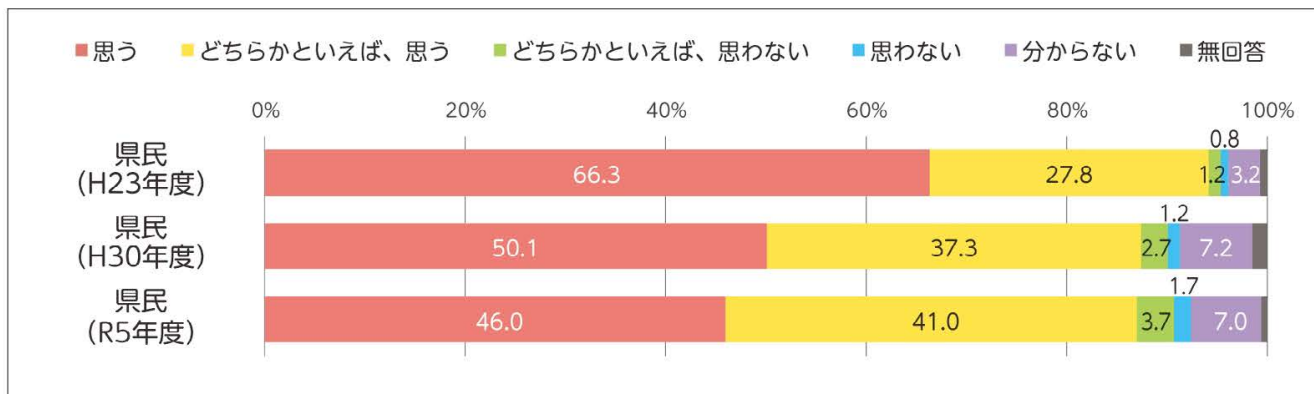


資料：「三重県子ども条例に基づく調査〈子ども調査〉」

子どもたちの育ちを見守り、応援したいと思う県民は約9割

子どもたちの育ちを見守り、応援したいと思うかについて、「思う」または「どちらかといえば、思う」と肯定的に答えた県民の割合は87.0%となっています。「思う」の割合は減少傾向にあり、平成23年度より20.3ポイント減少しています。

■ 図表44 あなたは、子どもたちの育ちを見守り、応援したいと思いますか



資料：「三重県子ども条例に基づく調査〈県民調査〉」

子どもを支援する取組を行っているNPOの方にお聞きしました。

● 子どもの居場所について

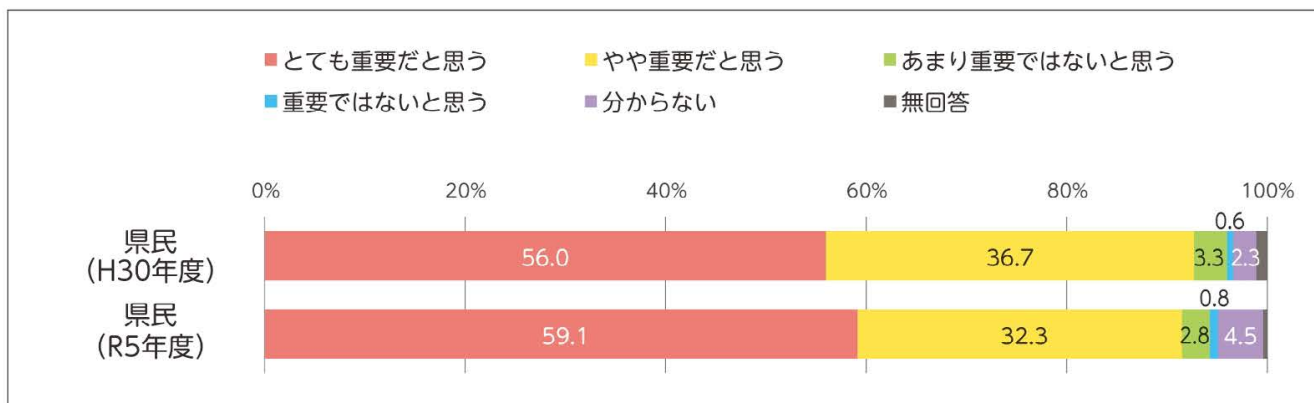
三重県は、中学生や高校生の居場所が少ないことが課題だと思います。行動範囲が学校やアルバイト先のみで、ユースセンターや児童館など地域とつながることができる居場所が少ないのが現状です。親が仕事で忙しく、一人きりで家の中（ネットの中）で過ごしがちになる子どもも多いのではないのでしょうか。表面化していないだけで、知らない間にネットの中で危険に巻き込まれている子どもがいるのではないかと危惧しています。身近な地域の中に信頼できる大人がいることを示して、大人が見守る安全な、子どもにとって安心して過ごせる居場所を提供したいと思います。また、子どもとの相性もあるため、子ども自身が選択できるように多様な居場所が数多くあることが望ましいと考えます。

(NPO 法人 太陽の家)

子育てをする上で、近所・地域の支えは重要だと思う県民は約9割

子育てをする上で、近所・地域の支えは重要だと思うかについて、「とても重要だと思う」または「やや重要だと思う」と肯定的に答えた県民は91.4%となっています。

■ 図表45 子育てをする上で、近所・地域の支えは重要だと思いますか

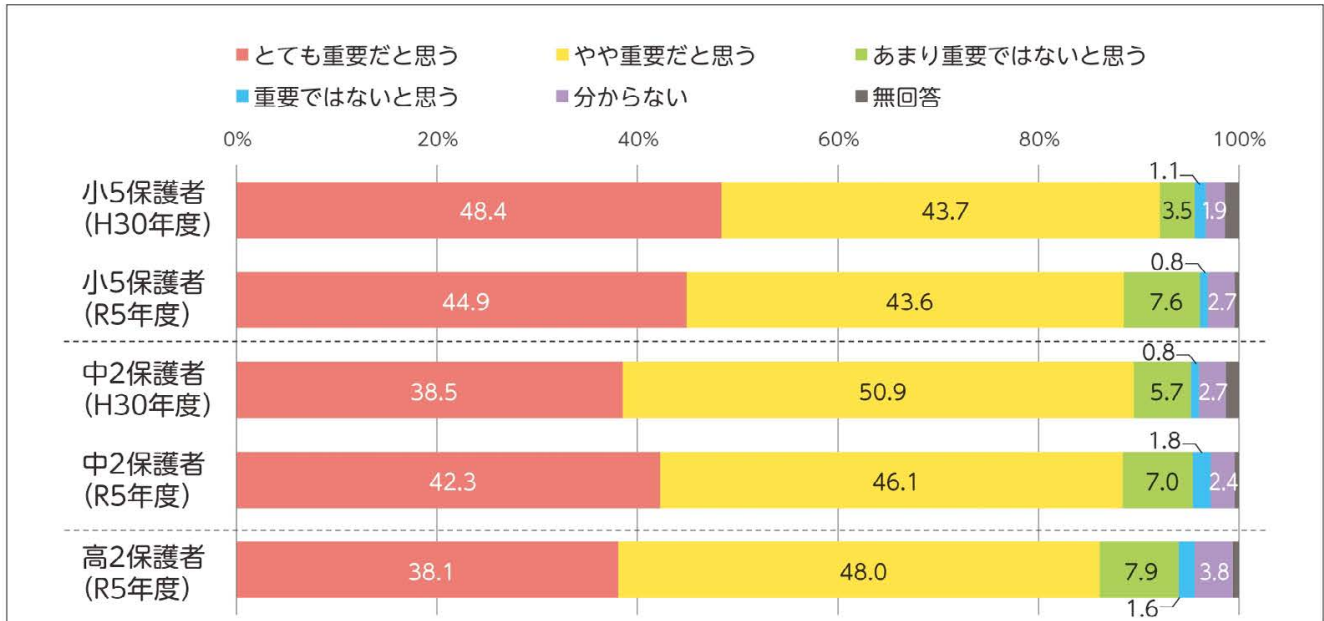


資料：「三重県子ども条例に基づく調査（県民調査）」

子育てをする上で、近所・地域の支えは重要だと思う保護者は約9割

子育てをする上で、近所・地域の支えは重要だと思うかについて、「とても重要だと思う」または「やや重要だと思う」と肯定的に答えた保護者は、小学生で88.5%、中学生で88.4%、高校生で86.1%となっています。

■ 図表46 子育てをする上で、近所・地域の支えは重要だと思いますか



資料：「三重県子ども条例に基づく調査〈保護者調査〉」

※高校生の保護者に対する調査は、平成30年度は実施していません。

子どもを支援する取組を行っているNPOの方にお聞きしました。

● 保護者への支援について

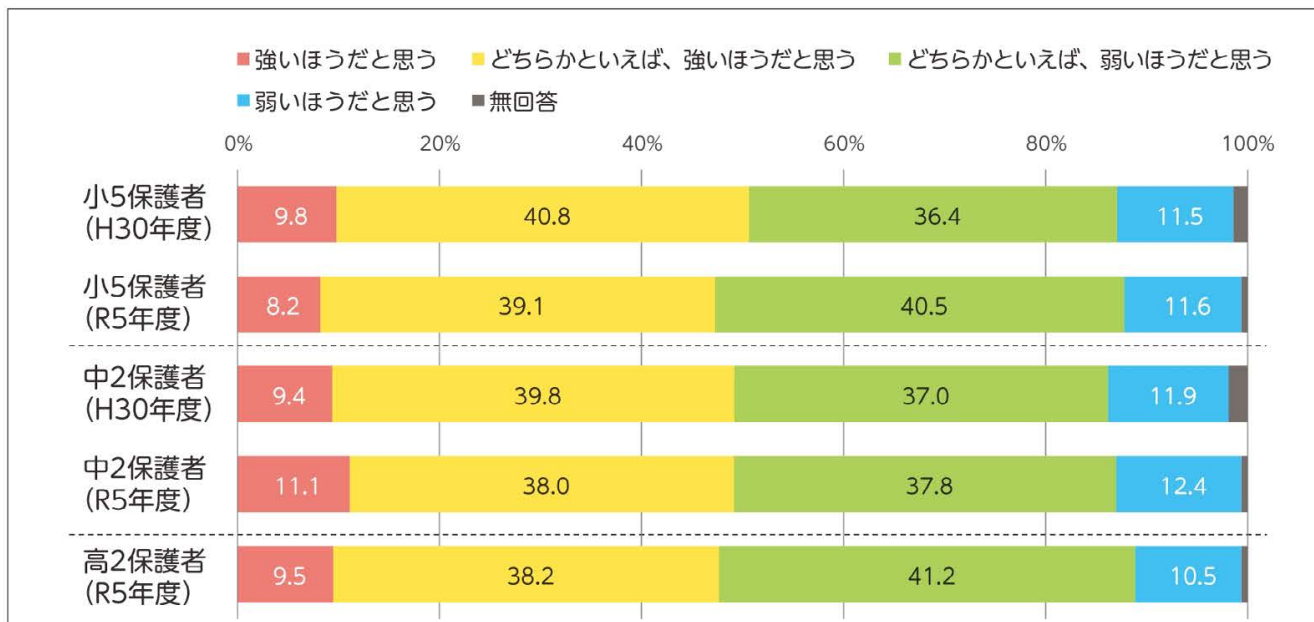
外国人への支援活動を通じて、自身が大切にされた経験がなく保護者になった人の話を聞くことがあります。派遣会社によっては、仕事を少しでも休むとすぐに仕事を辞めさせられるようなことがあったため、働きづくしで子どもの学校行事にも参加できないケースが多かったです。その頃に、家庭内でのコミュニケーションが不足したり、大切にされた経験が少なかったりした子どもが、今の親世代になっています。今定住している20代、30代で高校に行けないまま親になった人もいます。外国人に限ったことではありませんが、子どもを支援するには、保護者に寄り添うことが大切です。保護者も含めて支援しない限り、問題は解決しないと考えます。

(NPO 法人 愛伝舎)

地域の人たちとの関係やつながりが強いと思う保護者は約5割

地域の人たちとの関係やつながりは強いほうかについて、「強いほうだと思う」または「どちらかといえば、強いほうだと思う」と肯定的に答えた小学生の保護者は47.3%、中学生の保護者は49.1%、高校生の保護者は47.7%となっています。子育てをする上で、近所・地域の支えは重要との認識は約9割（P59）と高いものの、自身と地域の人たちの関係やつながりが強いと思う保護者は約5割にとどまっています。

■ 図表47 ご自身と地域の人たちの関係やつながりは強いほうですか



資料：「三重県子ども条例に基づく調査〈保護者調査〉」

※高校生の保護者に対する調査は、平成30年度は実施していません。